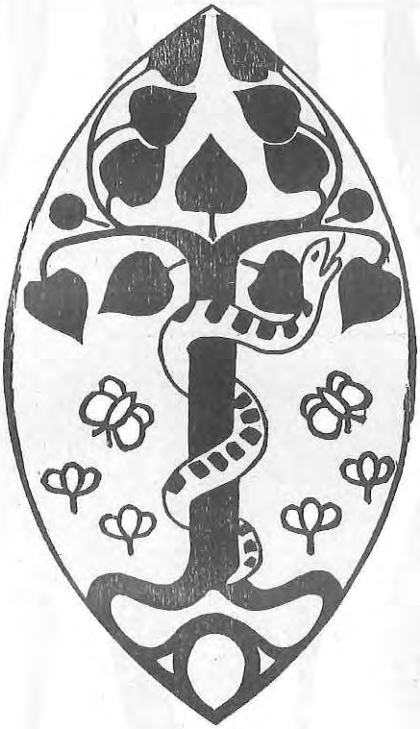
紀幌博物館案内



目次

本館全景
本館平面圖
丘珠村の追想
本館小史
動物標本類
植物標本類
人類學標本類
鑛物及岩石標本類

發行の趣旨

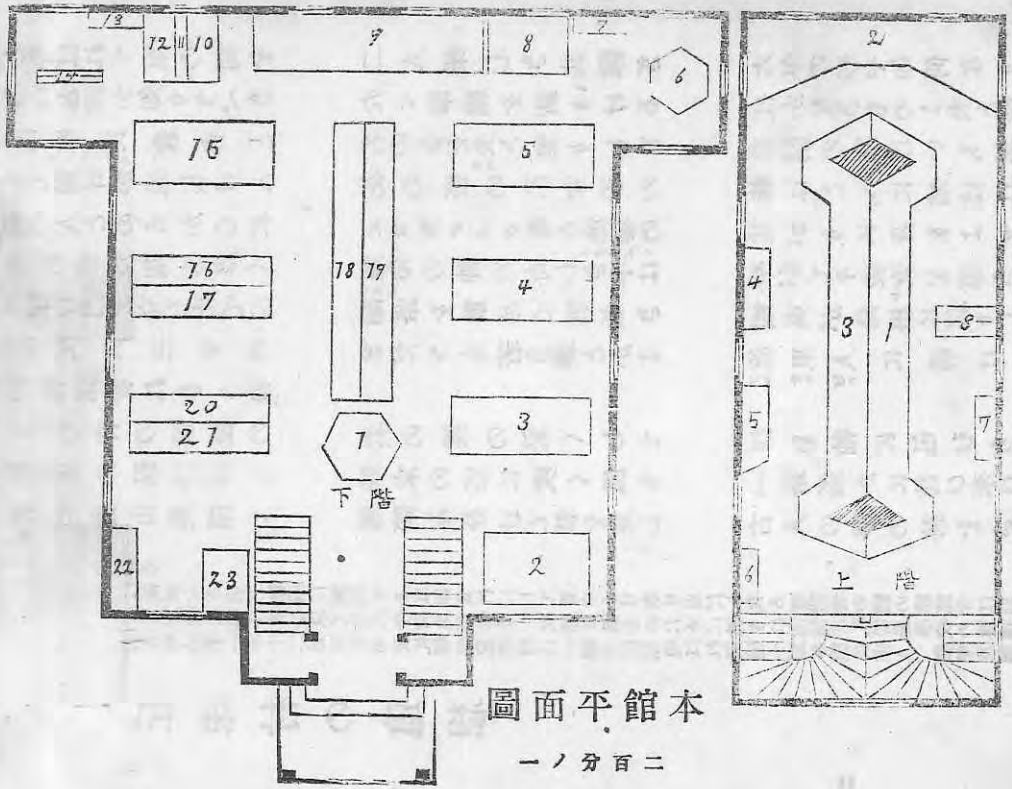
本博物館は大學の學生々徒の研究を以て其の本旨とするは無論の事なれども、又一面には普通教育と社會教育とに資するは其目的たること明なり、然るに漠然觀覽し過ぐれば其益蓋し尠し、本會之れを遺憾となし各科專門の士に依囑し本書を編纂し以て此の缺陷を補はんとす、素と完備を期せしが主意の基くところ普及にあるが故に簡略を旨とせり是れ唯購買に便ならしむるためのみ

文榮堂活版所は本會の此趣意を賛し挿圖を寄贈せしのみならず印刷上多大の貢献をなせり茲に其好意を謝す

明治四十三年四月

札幌動物學雜誌會誌す

博物館全景



本館平面圖

一ノ分百二

丘珠村の追想

去る明治十一年十二月五日の夜札幌郡丘珠村に一頭の巨熊現はれ炭燒小屋を襲ひ主人、嬰兒及雇人を喰ふ、家婦は僅に身を以て免れ今尚生存せり、又熊は兵士のために斃され遺骸は札幌農學校の博物學標本に供せらる第三號函に陳列せるは即其れにして胃中より取り出だしたる遭難者の體の諸部分は別に貯藏せり

比叡の奥山奥深く
今更更に忍びつゝ
ありし昔の追憶の
其の物語我れきゝぬ。
頃は文久三年の
慣れ住む門を立ち出でゝ
江差に留る暇もなく
津輕の人とあるからに
かくて幾日か過しけん
姓は堺氏倉吉と
落ちぬと誰か知りうべき
妻と呼ばれて束の間を

雪踏み分けて君を見し
野末の空に吹く風も
老の涙の繁くして
まだうら若き春とかよ
潮路を罩めて雲低き
運命の神の奇しき手は
ショカンベッなる漁場の
花の盛の乙女子の
名のるを夫と契りし日
たゞ幸福を祈りける
二人樂しき共稼ぎ

古人の夢の跡をさへ
一路遙かに訪ひ來れば
怨を袖に包むらん
故里人に誘はれ
蝦夷が島根に渡りしが
やがてゞ彼女を導きて
某がりに身をよせぬ
緣はこゝに結ばれて
悲劇の幕はいち早く
はかなきものよ夫と呼び
六年の春や如何なりし

かゝれる程に世は移り
異形のものゝ絶へざれば
打ち携へて歸らんと
修羅雄叫びの巷とて
二人は遂に北を指し
王化の外に幾百里
濶葉針葉打ち交る
綠の空も見へわかず。
豐平河は永久に
岸の限りは渺々と
されど日に日に移る世の
幕府始めて命を置き
てゝに數年を泣きし身は
野末の森に怪鳥呼び
我等爲す可き事はあり
炭燒く業を初めしが
契愈々濃やかに

外國人の黑船の
今はさすがに故里の
旅の裝はなりぬれど
一葦の海を船行かず
たつきの業を求む可く
熊住む島と棄てられて
影は山より野につゞき

水長けれど萱薄
獸のあとをとめてのみ
四方の叫に夢さめて
事執る館なりしかば
官の勸めに勇みたち
おどろが藪に隱れ住む
荒野に運を開かんと
需めの道の弘ごりて
此處には過ぎし美しの

港々に訪れて
いとゞ戀はるゝ妹と脊は
函館渡り風騷ぎ
空しくまたも漂浪の
札幌へころ着きにけれ
人通はねば生ひのまゝ
晝なほ暗く枝のして

隈笹叢に蔽はれて
道てふ道はなかりけり
此の地此の野を拓く可く
志得で落魄の
住む人まれに家遠く
惡しき獸の多くとも
丘珠村の地を定め
豐になりし鴛鴦の
男子をさへもあげにける

明日を知られぬうば玉のありと見し間の露も消ゑ明治十あまり一歳の馬して町へ今日も亦漲りしきり面さへ夫は歸りのまたるれば手に手をとりて夜に入りて樂しく今日を語りしが安き眠に就きたりし夜は刻々に更け渡りしばしは塵も沈むとき生なきものも慄ふ可く夢破られし倉吉の事の俄に氣も狂ひ稚兒かき抱き走せ出づる貫き刺すと覺にしが岸を隔てゝ住居する

夢か現か定めなき霜と碎くる身によせて年も暮れ行く雪の野を去にたるあとに降る雪は向く可き樣もあらざりきならひ乍らも北國の事なく家に伴へり書の疲に今はとて門には魔の手魔の神の雪はいよ〳〵降りしきり暗より暗を擘きて怪しき音の起りしに「誰ぞ」と叫びてたつや疾し衣をまとふ暇もなく折し脊の魔の物に後は得知らで絶ゑ入りぬ。家僕達は救呼ぶ

人の命を朝毎に賴むもあはれうき世かな彼女はつとより炭積みて風にまかして空に野にされば彼女の身氣配ひて雪を厭はず出で迎へかくて火桶を打ちかこい炭火焚き添へ常の如呪ぞ印を結びけん事ある前のしゞまぞと枕に近ふ閨近う之れや此の世の名殘なる悲鳴や早く倒れたり心も空に彼女はたゞ觸れて千條の絹針の

彼女の叫びをきゝければ

スハヤ事よと獲物とり　到れば已に時遲し　血汐は雪をあけに染め
見る目無慘に踏荒れし　跡のみにして稚兒はなく　主人も奪ひ去られけん
彼女ばかりころ傷に伏す。　情に彼女は救はれて　ながらふ可くもあらぬ身を
やがて集ひし村人の　此の夜荒びしまがつびの　呪は尙も留まらで
醫師が技に委ねたり　炭燒小屋を襲ひては　守居のものを屠りしと
血に飽きたらぬ熊をかり　明るをまちて村人の　ほとりくまなく探り行き
きくも怨の深ければ　中に獸の眠れるぞ　夫れよと急ぎ屯田の
篠路の村の木叢中　怒の彈丸の一發に　流石に猛き大熊も
兵士等に告げしかば　吐息微かに打ち曇る　心なき身もあはれさに
とはに眠りは覺めざりき。　今日ぞ夫子の日ならずや。　熊もろともに收めたり
語り終りし老媼の　片身のものは今も尙　あはれは千代に殘れゝば。
三十一年を繰り返す　博物館を見に行かん
腹を剖きて取り出でし
昔を忍ぶ栞にと

本館小史

東北帝國大學農科大學附屬博物館は主として本道産の動植礦物及人類學に關する標本を蒐集し、以て同大學々生、生徒の研究用に供し、兼て日を定め衆庶の縱覽を許さる。

本館はもと、開拓使設立の博物場と、札幌農學校の博物場とより成り、其沿革は左の如し、札幌市街の西北端北七條西七丁目に偕樂園と稱する七千餘坪の地あり、開拓使は明治四年一棟の木造家屋（今猶存す）と一二の附屬小舍とを茲に建設し、後に至り假博物館と稱す、是れ本館の濫觴なり、凡そ本道に産する天産、人工の物品を網羅蒐集して此に陳列し、時日を定めて開場し、衆庶に無料縱覽を許せり、明治十四年に至り陳列場の狹隘を告ぐることなれるを以て、北三條西八丁目の牧羊場の地一万三千八百餘坪の地を卜し、新館建設の工を起し明治十六年竣工落成を告げ開館式を擧行す是即ち現今の博物館是なり、館は木造二階建にして總坪數七十九坪餘外に倉庫（十五坪）一棟と看守所（六坪）一棟あり、是年北海道御巡幸に際し八月十五日畏くも　車駕本館に親臨あらせらる、十五年七月農商務省博物局の所管となり札幌博物場と稱す、是に於て物品陳列の目的を變し專ら本道移民の産業に裨益すへき勸業に關する物品と其製品供用器具類を陳列し以て本道に於ける水陸二産增殖の模範たらしめんことを務めたり、十六年七月北海道事業管理局の所管に移り、十七年七月遂に札幌農學校の所屬となり札幌農學校附屬博物館と改稱す。

札幌農學校博物館は同校の博物標本室にして講堂の一敎室を以て之に充てたり、其標本類

の一部は明治九年開校以來教官指導の下に學生の採集せしものに係る、十四年東京、芝、山内、開拓使假博物場列品の中の一部を割きて此に移す、十九年三月上記札幌農學校附屬博物館に合併す、四十年九月一日東北帝國大學農科大學開始に際し其附屬となり、東北帝國大學農科大學附屬博物館と改稱せり。

本館は冬期積雪の候(自十二月至三月)を除き毎週日曜、水曜の二回を定日とし衆庶の縱覽を許すを以て本道の普通教育上に資する少なからざるのみならず、本道に來遊する者をして特趣ある本道の天然物の形狀を窺ひ知らしむるの益あり、但憾むらくは館内狹隘にして所藏標本の四分の一をも陳列する能はざるを。

札幌博物館案内

札幌動物學雜誌會編纂

壹　動物標本類

動物の門と陳列函の番號

脊椎動物（楷下第一號函より第九號函まで、第十五號函より第十九號函、第二十三號函、楷上第一號函及第二號函）

節足動物（楷下第十三號函）

軟體動物（楷下第十四號函、第十二號函及第十四號函）

蠕形動物（楷下第十一號函）

棘皮動物（楷下第十三號函）

腔腸動物（楷下第十一號函）

海綿動物（楷下第十一號函）

脊椎動物の綱と陳列函の番號

哺乳類（楷下第一號函より第六號函まで、第二十二號函、第二十三號函、楷上第二號函）

鳥類（楷下第八號函より第十號函まで、第十五號函より第十七號函まで、第二十二號函、楷上第一號函、第二號函）

兩棲類及爬蟲類（楷下第七號函）

魚類（楷下第十八號函、第十九號函）

哺乳動物の目と陳列函の番號

靈長類（楷上第二號函）

攫猴類（同上）

翼手類（楷下第四號函）

食虫類（同上）

食肉類（楷下第一號函より第五號函まで、第二十三號函及ひ楷上第二號函）

齧齒類（楷下第四號函及ひ第二十三號函）

有蹄類（楷下第三號函、第四號函及ひ第二十三號函）

鯨類（楷下第二號函の前及ひ第四號函）

貧齒類（楷上第二號函）

第一號函

（數字は標本採集の年月日、地名は採集地）

▲ひぐま〇　明治二十三年四月捕獲　石狩國幌川産本州産の「くま」とは別種にして禮軀偉大胸部に新月形の白班なし、性猛悪にして往々人畜を迫害す、此標本は一夕牧場を襲ひ、馬六頭を斃し、一頭を半殺にして叢中に運び行きてこれを食せり

第二號函

▲ひぐま〇　明治十九年九月石狩國苗穂産、此標本は牧場に出でて犢牛數頭を害せり

▲ひぐま〇　銃手三名に重傷を負はしめたり　銃手三名を死に至らしめたり

▲幼獸一、齡五箇月、二、臨月に近き胎兒

第三號函

下段▲ひぐま○ 明治十一年十二月捕獲石狩國丘珠産

此標本は札幌及ひ其附近の村落に出沒し、遂に丘珠村にて炭燒小屋を襲へり、卷首の歌は此襲擊を詠じたるなり

▲ひぐま○ 樺太産、明治七年に樺太にて當歳の子熊を捕獲し東京芝開拓使構内に飼養し成長せしめたるもの、齡凡そ四歳

上段▲れぼかみ○ 明治十二年八月捕獲石狩國白石産

▲同○ 明治十四年六月捕獲石狩國豊平産、本州に棲む「やまいぬ」(豺)とは別種にして大陸の「おほかみ」に等し、往昔は群を爲して牧場に出て家畜を害せしこと甚しかりしが官、賞を以て捕獲せしめたると土地開拓の進歩と共に漸く數を減じ、目下殆見る事難し

▲いのしし○ 明治四十三年和歌山産本道にて棲まさるなり

▲いたち 四二、九、膽振國八雲産にして本洲産と同種なり

▲をほそぐいたち 又エルミン、冬毛、明治三十四年四月後志國積丹産、本州北部にも産す白雪地を覆ふに至れば黑色なる尾端を除き全身の毛色純白に變ず毛皮は貴し

▲こそぐいたち 夏毛、明治十二年捕獲札幌産

▲同冬毛 明治十一年十二月石狩國圓山産、大さ殆ど「ねずみ」の如し、冬は尾端まで白色に變ず、また毛皮として貴し

▲十字きつね 明治十五年十月千島支古丹産、脊上に十字形の班條あり其毛皮は貴し

▲あかぎつね 明治十四年八月石狩國札幌産

▲あかきつね○ 明治三十九年二月石狩琴似

▲そちごうさぎ 冬毛、一五、一一、札幌、本道産野生の兎にして加能越奥羽にも産す、本州に多く棲む「のうさぎ」は本道には産せず夏は褐色なれど冬は黑き耳尖を除き白色に變ず、農林業に害あり

▲同 夏毛、三八、八、石狩國花畔

▲同 秋毛春毛も之に等し三四、一一、膽振錦多峯

▲同幼獸

函外

▲くじらの骨骼 二二、四、後志國祝津

▲たぬきの毛皮 又むじなの毛皮石狩國千歳

▲十字きつねの毛皮 千島色丹

第四號函

下段▲いるか 大、一五、後志國朝里

▲同 小、三〇、五、同所産

上段▲らつこ 又海獺、七、千島、全身黑色の綿毛を密生し銀白色の刺毛を散布す、よりて最も優良なる毛皮を産し、上等品は數千金を價す、此標本は先づ「らつこ」中の大なるものなり

▲同幼獸 七、千島産

▲同胎兒 同上

▲いわしくじら胎兒 二八、四、後志國高島産

▲かはをそ 又水獺、一三、二、札幌、本道の「かはをそ」は本

州産と同種なれど毛の光澤麗し

▲とらふねずみ 又しまねずみ、一四、五、札幌

▲りす 又きねずみ冬毛一七、四、札幌

▲ももんが 又のぶすま、一九、四、札幌、前後の肢間に張る膜を翼とし飛ふ、むささびは本州に産し本道に棲まず、とらふねずみ、りす、ももんがは林業に大害あり

▲しちらうねずみ 本道に甚だ多く勢猖獗にて他の鼠族を壓倒す

▲くまねずみ 前種より少し又害獸なり

▲あかねずみ 至て少し、農事に害あるものゝ如し

▲やまねずみ 少し、多少害あり

▲はたけねずみ 體小にして、尾短し、雪中の下に草葉を集めて巣を作り雪の中を往來し、苗樹を害すること甚し

▲ぢねずみ 又ひみずねずみ、元來齧齒類にあらず、もぐらと共に食蟲類なり、地中に棲み、虫類を食とす故に益獸なり

▲うさぎかわほり 又みみながかはほり耳殼大なり

▲こきくがしらかわほり 類は凡て洞穴、橋の下、水の洞等の暗き所に棲み薄暮飛び行きつつ蟲を捕へ食ふ故に益獸の一なり

▲しか 夏毛、一三、八、石狩千歳、夏毛は班紋あり、本州産と同種なり、此外本道には本州に棲まざる二種のしかあり、しかは害獸なり

▲同 冬毛、一一、一二、産地同上

▲しかの角

▲となかひの角 樺太産

▲じやこうじか 樺太産、雌雄とも角なく、雄は犬齒突出し、臍後に麝香の腺を有す、支那四藏は有名なる産地なれどシベリヤにも産す本道になし

第五號函

下段 ▲をつとせい 八、五、膽振國室蘭、海獸にして、出産休息のため陸上に上るらつここに亞き毛皮の優良なるものなれとも近年減少す法を設けて厚く保護せらる

▲同 ▲同

▲ねほねつぷ 二一、二〇、石狩國石狩おつとせいの至て大なるものなり、十二、根室國根室

上段 ▲ねつとせい 一三、六、日高國津川産

▲とゞ 又海驢、一三、五、膽振國白老、あしかの至て大なるものなり

▲あしか

▲あざらし 八、千島擇捉、あざらしの毛色は種々ありこゝに列べる標本を比較すべし此の外にも異なれる毛色あり

▲同 二八、五、後志國朝里

▲同 日高國苫小牧

▲同 樺太産

第六號函

▲をしろわし

▲ゑちごうさぎ

▲きつね

▲こうりがも

●しまむくどり 又さくうどり

●れほるり

第七號函 爬蟲類及兩棲類

爬蟲類

◉龜鼈類 ▲いしがめ 東京産、河川溝渠に棲み食用にならず

▲かめのたまご 同

▲うみがめ 石狩濱中産函外の壁面にあり俗に正覺坊と稱し、其肉は罐詰に製す

▲たいまい 玳瑁、硫球産、函外の壁面にあり、背甲は扉根瓦狀に列生す、鼈甲は此甲を磨きて製せしものにて其用途甚だ廣し

▲すっぽん 上總、大多喜産、体の背腹は角質の甲板に變せず、肢端には內側の三世のみ爪を具ふ、本邦所々に産し、其肉は美味なり、近年東京府、靜岡縣等にて養殖するに至れり

◉鰐魚類 ▲くろこぢる 濠洲産、熱帶地方の江河に産し、性質猛悪にして人畜を襲ふ、其大なるものは長さ三丈餘に達すと云ふ

◉蜥蜴類 ▲とかけ 札幌産、本邦到る所に産し色澤種々あり、其尾は甚だ切れ易く敵に捕へらるる時は忽ち挫折するを以て命を全ふすること往々なり

▲同 名古屋産

▲からふととかけ 樺太、ウイヨフカ産

▲同 ナヨロ産

▲かなへび 札幌産、とかけに似たれども其鱗は粗造にして且尾は著しく長大なり

▲をさなはとかけ 沖繩産

◉蛇類 ▲やまかぐし 備後、福山産、黑褐色にして頸部に赤斑を具ふ、本道には産せず

▲あをたいしやう 札幌産、叢又は家に棲み全身青褐色を呈す

▲同仔 後志路産

▲同卵 札幌産

▲しまへび 札幌産、一名めらと稱す、黑褐色にして縱に數條の黑線あり

▲ぢむぐり同 背部は茶褐色にして黑点散在す

▲びばかり 備後産

▲まむし 渡島、惠山産、全身暗灰色にして黑色の班紋を具ふ、本邦にて最も普通なる毒蛇なり

▲からふとまむし 樺太ガルキノウラスコエ産

▲はぶ 沖繩産琉球及薩南諸島に棲息し其毒劇烈なり

▲あをだいしやうの骨格 札幌産

兩棲類

◉無尾類 ▲あまがへる 石狩、琴似産、指尖の吸盤にて樹木の枝葉に附著す、夏日急雨の來る時頻りに鳴く

▲かじかぐへる 上總大多喜産、山地の溪流に棲み指端に吸盤を具ふ、其鳴聲稚致あるを以て古來娯樂用として飼養す

▲ひきがへる　東京産、体面暗褐色を呈し、外觀甚だ醜けれども菜圃等の害虫を食するを以て有益なり

▲からふとひき　樺太コルサコフ産

▲つちがへる　備後、福山産、ひきがへるよりも遙かに矮小にして池沼又は水濕の地に産し、背部は暗黑色にして多數の痣狀突起あり

▲とのさまがへる　備後、福山産背部は茶褐色にして夥多の黑点を具へ後肢の末端には殆んど完全なる蹼あり本道には産せず

▲ゐぞあかぐへる　札幌産、本道到る所に産し頰部に黑班あり歐洲の或地方にては食用に供すと云ふ

▲あかぐへる　備後、福山産、我國本洲、四國、九洲に産し本道産に比して吻端著しく尖鋭なり

◉有尾類

▲いもり　佐賀産、地溝に産し背部及四肢は黑く腹部は赤色にして黑班あり、尾は長くして且著しく側扁なり本邦青森以南に産す

▲につこうざんせううを　石狩千歳産、背部は黑色にして腹部は灰白色なり體側に夥多の珈衣狀斑紋散布す

▲同稚魚　札幌産、さんせうをの幼時は魚類の如く水中に生活し外部に垂れたる鰓にて呼吸作用を行ふ

▲はこねさんせううを　相模箱根産、背部は赤褐色にして正中線を走れる一條の黃帶あり指端に黑褐色の爪を有す

▲はんざき　伊賀産全身黑褐色にして皮膚に疣狀の隆起あり、性質遲鈍なれども其生活力は頗る強壯にして往々體部を半分に割かるゝも尚死せずと云ふ

鳥類の目と陳列函の番號

短翼類　楷下第十五號函

長翼類　同上

扁嘴類　楷下第六號函第九號函

鷺類　楷下第二十三號

鶴類　同上

鷄類　楷下第八號函

鳩類　同上

猛禽類　楷下第六號函第二號函第二十號函

鳴禽類　楷下第六號函第二十號函楷上第一號函

啄木類　楷上第一號函

杜鵑類　楷一號上第一號函

保護鳥類　楷下第十六號函第十七號函

第八號函

鳥類　第八第九第十五楷

上第一號函中●を附する者は保護鳥にて陳列標本には赤紙を附す

目と標本の番號

鶴類(1)雞類(4)

(5)(6)鳩類(2)(3)

▲(1)のがん　一四、一一、後志國鏡函村、大なる野鳥にして、しちめん鳥の雌に酷似せり、往昔開拓使時代本道海濱にて見ることありしも現今其の影を見ず

●(2)さじばと　一三、九、札幌

●(3)あをばと○、よろうじ　一三、八、札幌

●(4)ゑぞやまどり　二三、一、石狩國千歳産

●(5)同　二三、一、札幌、本道特殊の島にして、林中に棲み冬は眠、木の芽、夏は木苺山葡萄、獼猴桃の果實を食す

●(6)うづら　二六、六、札幌

第九號函

●印は保護鳥なり

目と標本の番號　鶴類(7)より(51)まで、鷺類(12)より(36)まで、扁嘴類(37)より(77)まで

●(7)たんてう　九、石狩國千歳

●(8)同　九、同

●(9)同雛　一〇、二、膽振國植苗村

●(10)同　一一、二、石狩國千歳

●(11)まなづる　一一、同、鶴は往昔開拓使時代は多く本道にて産卵繁殖せしも濫獲の結果近年大に減少し僅に冬季少數を見るのみ

▲(12)あをさぎ　一六、五、石狩國千歳

▲(13)さんかごゐさぎ　一三、五、札幌

▲(14)せぐろごゐさぎ　九、八、同

●(15)こもじろ　三五、渡鳴國壽都鷺類の本道に來るは夏季にして河岸沼澤の邊に棲み巣を營み産卵し魚類を飼食とし、養魚に害あり

●(16)ばん○　一六、八、札幌

●(17)おほばん　二五、五、石狩國江別村

●(18)ひくいな○又なつくいな　一三、八、札幌

●(19)くいな　又ふゆくいな　二三、九、札幌

▲(20)よしごゐ○又ぼんのふさぎ　一三、四、同

▲(21)れほよしごゐの邊低濕の地に棲み産卵す　一三、五、同沼澤

▲(22)だいぜん　一四、九、渡島國山越内

▲(23)むなぐろ○　二〇、四、札幌

▲(24)めだいちどり○　三二、九、後志國錢函

▲(25)しろちどり　三二、一、後志國錢函村

▲(28)だいしやくしぎ○　二六、九、

▲(29)ちうしやくしぎ○　二六、九同

▲(20)あかゑりひれあしぎ○　三一、五、石狩國茨戸

▲(31)つるしぎ　二四、一〇、石狩國内穂

▲(32)あをあしぎ○　又ながじろしぎ　一九、九、渡島國黒岩

▲(33)うすずみしぎ○　又きあしずしぎ札幌

▲(34)くさしぎ○　二〇、九、後志國錢函

▲(35)ろりはししぎ○　三二、九、同

▲(36)いろしぎ○　三二、九、同

▲(37)おほろりはししぎ○　三二、九、後

▲(38)をばしぎ○　三二、九、後志國錢函

▲(39)はましぎ♀三二、九、同

▲(40)みゆびしぎ♂○三二、九、後志國小樽內

▲(41)とうねん♀一四、九、渡島國黑岩

▲(42)ひばりしぎ一七、九、同

▲(43)へらしぎ七、八、根室國根室

▲(44)うづらしぎ一三、九、札幌

▲(45)たましぎ♂○二、四、同

●(46)あをしぎ♂○一四、九、同以上各種の本道に去來するは春秋二季にして夏季止り産卵繁殖するものは小數なり春は北より秋は南より來るもの如し、冬期本道にあるものは僅かにあるのみ

▲(47)おほはくてう♂○一三、一一、膽振國勇拂

本邦扁嘴類中最大なるものにして冬季中港灣又は不凍池沼に多少群棲す羽毛は織物原料として價貴し

●(48)ひしくい♀一九、一〇、膽振國勇拂

●(49)同♂○二九、一一、石狩國札幌

●(50)さかつらがん九、一〇、釧路國釧路

●(51)かりがね♂○二一、四、札幌

●(52)こかりがね♀三〇、一〇、石狩國茨戸

●(53)はくがん三四、九、後志國錢函以上の雁類の本道に去來するは春秋彼岸の二季にして滯留時日は土地により多少の差異ありと雖凡そ三十日以內とす夏止りて産卵繁殖するものあるも甚だ多からず

●(54)まがも♂♀一三、三、石狩國千歲

●(55)同雛三三、八、後志國小樽內

●(56)かるがも♂○二五、一〇、石狩國丘珠

▲(57)はしびろがも♂二四、一♀○、札幌

▲(58)をしどり♂一四、一♀一、同

●(59)こがも♂○♀一四、一〇、石狩國千歲

▲(60)をながかも二一、九、同以上各種は本道に棲み夏季沼澤の邊に巢を營み産卵繁殖す、をしどりは立樹の穴に産卵するの性をあり

▲(61)よしがも♂○一二、一二、後志國小樽

▲(62)ひどりがも♂二四、一〇、石狩國內穩

▲(63)くろがも♂○二五、一一、後志國錢函

▲(64)びろうどきんくろ♂九、八、膽振國勇拂

▲(65)こほりがも♀一六、一〇、後志國小樽

▲(66)同♂九、三、膽振國室蘭

▲(67)ほほじろがも♀一六、一〇、札幌

▲(68)同♂一七、一、膽振國室蘭

▲(69)しのりがも♀二〇、一〇、北見國禮文

▲(70)同♂膽振國室蘭

▲(71)あかはじろ♂九、九、膽振國勇拂

▲(72)きんくろはじろ♀二五、四、札幌

▲(73)なぎはじろ♂一三、一二、

▲(74)かわあいさ♀一二、一二、札幌

▲(75)うみあいさ♀三三、三、後志國高嶋

▲(76)同♂三三、三、同

▲(77)みこあいさ♀二五、一、膽振國苫小牧、以上本

遺に於ける普通の種にて俗に渡り島と稱するもの之れなり、海棲又は淡鹹兩棲島類なり初秋の頃より翌春五月の初め氣候溫暖を加ふると共に漸次北方に去り夏季止るもの甚た稀なり

軟體動物の綱と陳列函

頭足類及腹足類第十號函及第十三號函

瓣鰓類第十二號函

板殼類第十三號函

第十號函

◉頭足類

▲たこぶね　陸奥下北郡之は雌の介殼にして卵を保護する器なり、雄は介殼を有せず

▲おほむがひ　琉球、印度の如き熱帶地方に產し頭足類としては他の軟體動物が有する如き完全なる介殼を有するものは之れあるのみ

◉腹足類有肺類

▲なみきせるがひ　膽振室蘭

▲さつぽろまいまい　札幌藻岩、まいまいの種類は總べて植物の葉を害す

▲ねぞまい　膽振千歲、石狩野幌

▲みやべまい　札幌、後志、余市

▲こはくがひ　札幌

▲ものあらがひ　札幌、羊の肝臟ツストマの中間宿主として有名なり

▲くろみなし又いもがひ　琉球

前鰓類櫛鰓類

▲ひたちおび　北見禮文島

▲ねじぼら　北見禮文島

▲うみたにし　後志鐵函

▲もすろがひ　釧路

▲ねぞぼら　函館

▲ひめねぞばひ　釧路十勝

▲ばひ　泉州堺、此卵はヒョットコホーヅキと稱へ其介は蠟をつめて獨樂にす

▲つのをもいれ　北見禮文島

▲やうらくがひ　北見、禮文島天鹽留萌

▲あかにし　函館、此卵胞はナギナタホーズキなり

▲ねぞやうらく　後志余市

▲きねぼら　產地不明

▲いわにし又れいし　函館

▲ながちぢみぼら　釧路

▲ほらがひ　琉球、昔は軍用にしラッパの如く使用されたり

▲あわぼら　釧路

▲やつしろがひ　日高幌泉

▲ほしだから　琉球、此類は支那、印度にては昔貨幣又は裝飾用として使用されたアフリカの或地方にては今も尙貨幣にす

▲うみにな　後志高島

▲さざね　函館市場、食料に供す本州に多し

▲たまきび又めくらがひ　釧路

▲ねぞふねがひ　後志高島

▲つめたがひ 後志鏡函
▲ひげまきながぼら 釧路
▲きりがひだまし 北見江差
▲れぼへびがひ 北見利尻
▲をほたにし 石狩沼の端
▲まるたにし 石狩沼の端、タニシは何れも食用に供す此子供は體生なり
▲かわにな 札幌 楯鰓類
▲いしだたみ 函館
▲くろつげがひ 後志余市
▲うずいちもんじ 琉球
▲ゑびすがひ 贈振室蘭
▲てしたかがんがら 室蘭、小館函
▲きしやご又ぜぜがひ 供の玩具にせらる
▲あわびがひ 出雲、釧路岸厚、種々の貝細工の原料となり、肉は甚だ美味にして乾製して輸出され引延してノシにす、本道にては日本海岸に產し、曾て室蘭に移殖せしことあり
▲とこぶし 沖縄、相模江の島、前者と同樣に食料となる
▲さるあわび 後志岩内
▲うのあし 產地不明
▲あをがひ 室蘭、貝細工の原料となる
▲きくがさ 後志蘭島渡島
▲ゆきのかさ 渡島福山
▲よめがかさ 渡島福山
▲べつこうがさ 渡島福山
▲つのがひ 石狩望來

第十一號函

蠕形動物、腔腸動物及浮游生物

蠕形動物

上段、環蟲類 ▲(1)みゝず 札幌產

▲(2)ごかい 武藏羽田產、淡水鹹水の混入する所の泥砂中に棲息す至る所の海岸に見出さる
▲(3)ごかい 北海道產
▲(11)ひる 動物の血液を吸いて生息す醫用とせらる
▲(4)うみけむし 後志忍路產、美麗なる剛毛頗る多く活潑に海中を游泳す
◎圓蟲類 ▲(5)くわいちゆう 幌札產、普通小兒の小傷に寄生し大便と共に排出せらる
▲(7)はりがねむし 名古屋產、カマキリの腹中に寄生す
◎扁蟲類 下段の十三 ▲さなだむし 裂頭種此の種の條蟲は幼虫時代は鱒の肉中にあり、從て鱒を生食する時は此の條虫に寄生せらるゝ懼れあり
▲(6)うみぷらなりあ 石狩、厚田產
◎腕足類 ▲(7)しやみせんがひ 筑後柳河產、海底の砂中に棲み一名女冠者と云ふ

腔腸動物

◉水母類

▲(9)たこくらげ 相洲三崎産、本邦南部の海に産し其の大なるものは傘の直徑一尺餘に達するものあり

▲(10)あんどんくらげ 同、發光器を有し、夜間海中に美しき光を放ちて浮游す、其の形あんどんに似たるを以て其の名あり

下段、珊瑚類

▲(4)いろぎんちやく 後志忍路産

▲(2)みどりいし 琉球産

▲(10)あかいそばな 相洲三崎産、いそばな類は暖地の海底に生じ、其の群生する樣恰も花園の如く海中のお花屋敷と稱せら

▲(11)きいそばな 同上

▲(5)ときいろばな 同上

▲(6)むらさきいろばな 相洲三崎産

▲(13)あかさんご 相洲三崎産、沐浴用さんご類は暖地の海中に生じ我國一年の輸出額約十萬圓、丸洲、南海、西海地方に産し、土佐、鹿兒島殊に著し、白珊瑚を上等とし、赤珊瑚之れに次ぐ、用途は主として婦人用細工物なり

▲(15)しろさんごの落枝 同上

▲(1)うみさぼてん 蝦夷函産、諸所の淺海沿岸に群生す、夜、光を發して美麗なり、一名乞食の棒とも云ふ

▲(7)うみさぼてん 同上

海綿動物

◉六放海綿

▲(12)どうけつかいめん 相洲三崎産、此の綱の中に雌雄の海老類生息す、依て僧老同穴と謂ふ、暖地の海中にあり、相模灘世に名あり

▲(9)拂子介 相洲三崎産、形是だ拂子に似たり、長き硅土質の尾樣の條束に依つて海底の砂中に立つ

◉普通海綿

▲(3)かいめん 後志忍路産、種類極めて多く、種々の用に供せらる、暖地の海底に多く産す

▲(8)かいめん 相洲三崎産、沐浴用に供せられ、地中海に産するものを以て最良品とす

浮游生物（プランクトン）

包括するものにして、プランクトンとは水中に浮游する一切の動植物を中已れの意志にて游泳する事なく唯潮流等に從つて浮漂する一切の動物は之を總稱して浮游動物（ズープランクトン）と云ふ、而して此等の多くは有用魚類等の貴重なる食餌となるを以て、其種類、分布及多寡等の調査は水産上等重要なるものなり

◉脊索動物

▲さるぱ 日高産

▲うみたるぱ

▲あつぺんぢくらりあ 後志、忍路産

◉節足動物

▲けんみじんこ 後志忍路産

▲みじんこ

▲はなびひび 陸中、鮎川産

◉蠕形動物

▲やむし 相洲三崎産

▲すばでら 陸中川産鮎

◎腔腸動物

▲うりくらげ 贈振室蘭

▲みづくらげ 後志路産忍

▲あんどんくらげ 後志路産忍

◎原生動物

▲やこうちゆう 三崎洲相産

第十二號函 軟體動物

◎瓣鰓類 原鰓類

▲れうきらがひ 北見禮文島

◎絲鰓類

▲いがひ 後志忍路美味を有し佛國などでは之を養殖す、下等の眞珠を出す

▲ひばりがひ 室蘭

▲くろたまいがひ 釧路

▲むらさきいんこ 後志余市

▲くじやくがひ 後志余市

▲あかがひ 函館市場、美味を有せり

▲ふねがひ 後志鏡函

▲べんけいがひ又ぜにがひ 館函後志余市

◎正瓣類

▲かもめがひ又いわほり又きりがひ 後志高島、帆き岩に穴を穿ちて棲む

▲れうのがひ 釧路十勝

▲ゐぞれほのがひ 後志余市

▲れほみぞがひ 釧路

▲ゐぞまて 室蘭、足を以て深さ二三尺の砂泥中に堀入り棲息す

▲いろしじみ 北見

▲さらがひ又しらがひ 後志鏡函

▲しらとりがひ 後志高島

▲ひめしらとりがひ 産地不明

▲かがみがひ 後路鏡函

▲はまぐり 室蘭、本洲に多くして年々の産額は凡十三萬圓、美味を有するを以て有名なる者なり

▲ゐぞすだれ又ゐぞわすれ 室蘭

▲れきあさり又なみうちがひ 後志余市

▲ばゞがひ 後志鏡函

▲あさり 後志高島、本洲に多くハマグリと同樣なる産額を有す

▲おにあさり 後志高島

▲うちむらさき 函館

▲ほつき又うばがひ 小樽、函館本道に多く産す

▲ゐぞばかがひ 後志鏡函

▲ぬまがひ 十勝、眞珠を産す

▲どぶがひ又からすがひ 札幌眞珠を産す

▲かわしんじゆ又かわがひ 贈振

苫小牧、分布、世界に渡り淡水産の貝に於て最も重要なる眞珠を産す

▲まつかさがひ 渡島大沼

▲しじみ 釧路厚岸

▲ゐぐいしがけがひ 釧路、日高幌泉

◎擬鰤類

▲ゐぐぎんちやく 又ばどのて 後志、忍路産

▲あかざらがひ 函館

▲いたやがひ 後志蘭島、古來貝杓子として使用せらる

▲ほたてがひ 膽振室蘭、本道に著明なる海産物にして食用として美味なり

▲あつがひ 濠洲木曜島、印度、南洋特にセーロン、木曜島等に多く産し世界に有名なる眞珠を出す

▲あこやがひ 沖縄、志摩國英虞灣には有名なる養殖場あり、高價なる眞珠は之より出ず、其介殼も亦ボタン其他種々の裝飾品の原料となる

▲まべ 産地不明、眞珠を出す

▲しゆもくがひ 産地不明

▲ゐぐがき又ながぐき 釧路厚岸、本道厚岸に産し明治十九年には凡十六万圓の産額ありしも養殖の良しからざりし爲め年々減退し近年に於ては僅かに千三百圓の産額あるのみ

▲まがき 産地不明、廣島佐賀二縣に於ては盛に養殖しつゝあり

▲いたぼがき 十勝、他の牡蠣の如く岩石に着棲せずして海底に棲息す

▲たひらぎ 佐賀縣、此の肉柱は美味を有し賞用せらる、本洲に産す

▲しやむ 産地不明、種々の貝細工の原料となる

第十三號函

軟體動物、棘皮動物及海鞘類

軟體動物

◎頭足類 二鰓類

▲まだこ 函館、普通市場に販賣せるタコは之れなり

▲みみいか 函館

▲はりいか 函館

▲すまとらやりいか又ひいか 肥前

▲ぶれいきやりいか 後志小樽、スルメを製す普通一番鰔と稱するもの之なり

▲につぽんやりいか 北見、本道に産する普通ヤリイカ類は之なり

▲やりいかの卵 函館

◎腹足類 後鰓類

▲あめふらし 膽振

▲くずやがひ 函館

◎板殼類

▲むい 膽振室蘭、アイヌ人が食す

▲ひざらがひ又じいがせ 後志高島

▲かいとんもどき 膽振室蘭、相模三崎

棘皮動物

◎沙噀類▲なまこ 北見、禮文島香深、コノッタは此内臓を鹽漬にしたる者なり此肉を乾製したる者は海參と稱し支那に輸出せらる

▲うりなまこ 後志 鏡函

◎海膽類▲むらさきうに 後志 國忍路、此卵を鹽漬にして鱈雲丹を製す

▲ばふんうに 後志忍路、前者と同樣雲丹の原料たり

▲ぶんぶくちやがま 後志小樽 鏡函

▲たこのまくら 後志 鏡函

▲かしばん 後志 鏡函

▲はすのはがひ 後志 鏡函

◎海盤車類▲ひとで 後志忍路、手が折れても再び生ずる勢力が大であつて數ケ月の後には再びもとの體となる

▲こくりやうひとで 後志 高島

▲もみじがひ 後志 忍路

▲いとまきひとで 後志 忍路

▲くもひとで 後志 國

海鞘類

の多くは体軀靈狀にして其下端を以て海中の石垣、岩礁等に着生す、其幼蟲は蝌斗型にして自在に游泳し、後、外物に附着して成体となる、此類は幼虫の體制及諸器官の配置、脊椎動物に類似する点多し

▲もゝぼや 後志忍路産、海底の岩石に附着し淡紅色にして表面滑かなり、本道沿岸には夥多しく産し、食用とす

▲いぼゞや 同、體表、赤色にして多くの疣狀突起あり、食用に供す

▲ひわぼや 後志高島産、柄部長く體軀琵琶狀を呈す

節足動物の綱と陳列函の番號

昆蟲類（階下第十四號及壁面の額）

蜘蛛類（階下第十三號函及第十四號函）

多足類及甲殼類（階下第十三號函）

多足類及蜘蛛類

◎多足類▲かで 東京産、第一對の脚は鋭き鉤爪に變じ、外敵を螫し劇毒を起す

▲やすでれ 札幌産、叢中に棲み無毒なれども悪臭を放つもの多し

◎蜘蛛類蝎類▲つくしさそり 洲滿臺灣及南清に廣く分布する者にして尾端の毒鉤を以て螫し激毒を與ふ、戰時滿洲の地に我軍人を苦めたる者は即ちこれなり

◎鰐脚類▲さそりもどき 蝎に能く似れども腹部の後半急に細くなり糸の如し、多くは尾端に毒腺を有す

◎長脚類▲めくらぐも 樹陰濕潤なる地に産す

◎壁蝨類▲だに 草叢中に棲むものなれども、往々人畜の皮膚に寄着して血液を吸ふ、就中犬に最も普通なり

甲殼類

◎胸甲類◎十脚類の蟹類▲さめばだへ

いけがに 後志鏡函産、平家蟹に似たれど甲殼の外表鮫皮の如し、由て此名あり

▲へいけがに　肥前諸富産、中古平家の滅亡せし瀬戸内海、九洲地方に多く産し、背甲の模様恰も怒相を表はすに似たり、故に平氏戰亡者の靈、此蟹に化せしなりと唱へて斯く名けたり

▲あさひがに　後志忍路産

▲きんせんがに　同　肥前諸富産

▲くりがに　後志忍路産、甲殼は略五角形をなし躰軀は脚肢と共に細毛を蜜生す、本道沿岸には稀ならず

▲よつばいそがに　後志忍路産、本邦近海に産し甲殼は西洋梨子實形をなす、其頭角は著しく突出し、且つ叉狀となれり往々背面に藻類の着生するあり

▲こぶしがに　武洲羽田産

▲いばらがに　小樽産、海産にして節足動物中最も大なるものなり、近來鑵詰に製して輸出せらる、本道一ヶ年の産額約三十万圓あり

▲がざみ　後志忍路産、暗綠色にして胸甲は左右に延長し其兩端棘狀となれり、各地の濱海に産し食料に供す

▲ひらつめがに　後志忍路産、背殼稍圓く後方に向て扇面形をなせり、外表は平滑にして紫紅色を帶ぶ第五脚の末端二節は扁平にして游泳用をなす

▲もくづがに　石狩江別産、淡海水の混ずる河口に多く産し、鋏の基部は柔毛を蜜生す

▲たらばがに　後志小樽産、甲殼の外形圓頭等邊三角形をなし外表には夥多の疣狀突起を生ずれども刺棘を有せず、本邦日本海北部に産し、其大なるものは甲徑七八寸に達す

▲いろがに　後志忍路産、沿岸到る所に産す

▲べんけいがに　膽振室蘭産、背甲は四角形にして赤色なり

▲しをまねき　東京産、干潮時に其大形なる一鋏を擧げて高く動かすにより潮の來るを招くと云ひ斯く名附けたり

▲かぶとがに　備前岡山産、前世界に盛んに繁殖したるもの、遺物にして九洲及瀨戸内海に多く産す

◎十脚類　蟹類と同樣殖産上有用なる蝦類者多く、本道壹ヶ年の産額約二萬圓に及ぶ

▲やどがり　後志忍路産、腹部は柔軟にして螺類の空殼に寄りて其身を保護す

▲いせえび　東京産、本邦中部以西の太平洋沿岸に産し、古來飾海老として賀宴の式に用ゆ、近年支那及歐米に輸出するに至れり

▲ざりがに　札幌産、我國青森縣以北の山間溪流に棲息し、歐洲の或地方にては食用に供すと云ふ

▲くるまえび　肥前諸富産、靜穩なる近海に棲み、美味なるを以て賞用せらる

▲しまえび　北見宗谷産、軸狀突起の上面には大凡十五個の鋸齒を有し第一歩脚の第三節は板狀となれり、生時は腹部背上に綠色の縱走せる條帶を具ふ、北太平洋オコツク海に多く産し食用に供す

▲すなえび　後志忍路産、稍小形の蝦にして軸狀突起の兩側には二個の刺棘あり、本邦至る所の濱海に産す

▲ほつこくえび　北見宗谷産

▲てながえび　後志忍路産

◉裂脚類

▲あみ　後志忍路産、鹽漬として食用に供し、又肥料に用いらる

◉口脚類

▲しやこ　後志忍路産、本邦各海に産す食用に供し、又釣魚の餌に用ゆ

◉節甲類

▲とびむし　後志忍路産よこねびと稱し、淡水海水熟れにも産す、其體部は彎曲し飛躍するに巧みなり

▲われからし　同、一に「たけのふしむし」とも云ひ、海藻中に棲息す

▲ふなむし　膽振室蘭産、海岸の砂濱に多數葡萄蔔

▲わらじむし　札幌産、低濕の地又は床下等に棲み葡萄蔔すること疾し

◉切甲類

◎蔓脚類

▲ふぢつぼ　後志、餞函産、海岸の岩礁、杭木等に群生し肥料として有効なり

▲かめのて　日高産、小鱗を供ふる柄部にて岩石に附着す

▲たかのつめ　日高産、一名にぼしがひとも云ふ長柄の肉質部を有し殼は鳥帽子形なり

◉橈脚類

▲てふり　後志忍路産、奇形となり、魚類等の皮膚に吸着するに由り水産業に有害なり

▲れるねあ　同、海産魚類の鰓部其他に寄生すれども其害烈しからず

第十四號函及壁面

昆蟲類及蜂鳥

◉膜翅類（蜂及蟻類）

▲をながばち　樹幹を穿ちて、棲息する昆虫に寄生して之れを殺す故に有益なり、尾端にある三本の尾標物の内中央の一本は産卵針なり

▲ひめばち　種々の昆虫に寄生す

▲あしながばち　家屋附近に最も普通に見る所の者にして小形にして鐘狀の巣を作る

▲すゞめばち　最も大なる巣を作る種類にして、往々他巣の者と鬪爭をなす、俗に蜂合戰と稱するものゝ多くは此類の蜂なり

▲ひながばち　早春種々の花を媒介する主なる蜂は之れなり

▲みつばち　此より蜜及蠟を得る事は能く人の知る所なり

▲はなばち　札幌附近にはこの類多く、何れも春期花間に集る

▲じがばち　古來此の蟲は他虫を携へ來りて「ジガ々々」（似我）と呼び、以て我が兒に化すると云ひ此の名あり、蓋し自巳の幼虫を養ふに他虫を取り來るによる

▲あり　▲おほあり　蟻は種類多く土中に住む者あり庭園田圃あり、樹木に住む者あり苑して害あるは人の知る所なり

▲はぐち　此の類も多し、何れも幼虫は植物の葉を食ふが故に有害なり

▲くびながばち

▲はきりばち

◉鞘翅類（甲蟲類）

▲みやまはんめろ　此の類を一に ミチヲシヘと

云ふ、田圃にあり害虫を食ひて有益なり、次に記する三種も此れと相似たるものなり

▲にははんめう

▲こにははんめう

▲こはんめう

▲まるくびごみむし　本種は以下敗十種のゴミムシ類と共に害虫を食ふ故に農業上有益なれば勉めて保護せざる可からず

▲はんめうもどき

▲せだかをさむし

▲へうたんごみむし

▲おほるりをさむし

▲ゑぞまい〳〵かぶり　此れは本道特産の種にして、常に溪流の邊に居り蝸牛を食ひて其の殼にて頭部を蔽ふ故に此の名あり

▲ゑぞかたびろをさむし　夜盜虫を食ひて特に有益なるものなり次種は本種と甚だ近き者とす

▲くろかたびろをさむし

▲くろながをさむし

▲せあかをさむし

▲ねぞをさむし

▲ごもくむし

▲あをごみむし

▲せあかごみむし

▲きべり

▲あをごみむし

▲れほごもくむし

▲ひめきべりあをごみむし

▲よつほしごみむし

▲ごみむし

▲ながごみむし

▲あとまるごみむし

▲くろながごみむし

▲ひらたごみむし

▲きんながごみむし

▲せぼしごみむし

▲はらあかごみむし

▲まるごみむし

▲みづぎはごみむし

▲げんごろう　本種及以下列記するゲンゴロウ類は水中にありて幼魚を食ふ故に養魚家に有害なるものなり幼虫を孫太郎虫と云ふ

▲きべりげんごろう

▲ひめげんごろう

▲まめげんごろう

▲しまげんごろう

▲くろづまめげんごろう

▲すなむぐりげんごろう

▲ちやいろげんごろう

▲がむし　此の類も習性前類に同じ

▲ねぞこがむし

▲ごまふがむし
▲ひめすなむぐり
▲みづすまし　常に水上にありて敏速に走る、四個の複眼を有し二個は上方にありて他の二個は下方にあり以て水上を見る可く同時に水中をも見得べし
▲ねぼみづすまし　形態及性狀前者と等し
▲あかばはねかくし　本種は常に動物の死屍に集り來りて、之れを食ふ、又時に乾魚を食ふ事あり、以下記する數種も大抵之れと同樣なるも中には樹液に集る者あり
▲こがしらるりはねかくし
▲ねぼはねかくし
▲くろはねかくし
▲あをばあり
▲かたはねかくし
▲しらぼしひろはねかくし
▲こがしらはねかくし

▲みやまくわがた　頁日樹液に集る普通の者なり、常に子供の之れを弄ぶ事は普く世人の知る所ならん、幼虫は朽木を食とす
▲ひめくわがた
▲のこぎりくわがた
▲すじくわがた
▲ひらたしでむし　本種並に以下記す所のシデムシ類は皆動物の屍を求めて集り之れを地中に埋めて其の屍の體内に產卵す又乾魚を食する者もあり
▲ねぼひらたしでむし
▲ぴろうどひらたしでむし
▲ひめひらたしでむし
▲あかくびひらたしでむし
▲よつもんひらたしでむし
▲くろひらたしでむし
▲まへもんしでむし

▲よつめしでむし
▲ほうもんしでむし
▲くろしでむし
▲こくろしでむし
▲むらさきはなむぐり
▲おほはなむぐり
▲くろはなむぐり
▲はなむぐり　以上四種のハナムグリは共に花間に多きものなり
▲まめこがね
▲ひめこがね　以上二種共に豆類を食ふ害虫なり
▲るりかなぶん
▲どうがね
▲くろひらたこがね
▲ひめはなむぐり
▲とらはなむぐり
▲おほとびいろこがね

▲まぐろこがね 常に馬糞に集り來りて之れを食ふ故に此の名あり近似の者多し次に記せる三者の如し

▲れほふたほしまぐろこがね

▲ひめつのこがね

▲れほまぐろこかね

▲びろうどこがね 農作物の害虫なり

▲こかぶとむし

▲せんちこがね 此れはマグソコガネと同樣に馬糞及他の糞を食す

▲ねんまむし

▲ひめねんまむし

▲こねんまむし

▲ひらたねんまむし

▲ふたをたまむし タマムシ類は其翅の美しきを以て有名なり種類甚だ多く皆樹木の幹中に住居す

▲あをたまむし

▲くろほしたまむし

▲かつをぶしむし

▲とびいろかつをぶしむし 此の種共に塵節を食はふて害あり

▲よつほしれほきすむ

▲せすじむし

▲こめつきむし 此の類甚だ多し幼虫は農作物の根を食ひて之れを枯す者あれば勉めて驅除する必要あり

▲せぐろあかこめつき

▲あかばこめつき

▲るりこめつき

▲さびきこり

▲あをじようかいぼん

▲ほたるもどき 以上の二種は害虫を食ひて有益なりとす

▲あかはむしだまし

▲べにほたる

▲へいけぼたる 尾端より螢光を發する故に有名なり此れに似て大形なるを源氏螢と云ふ武洲大宮は其の名所なり

▲つちはんめう

▲ひめつちはんめう 共に極めて有毒なれば手に觸れぬ樣注意す可し

▲どろごみむしだまし

▲きまわり

▲こゞみむしだまし

▲れほごみむしだまし

▲にぐりごみむしだまし

▲あをかみきりだまし 害虫を食ひて農家に益す

▲よすじはなかみきり

▲ふたすじはなかみきり

▲あかはなかみきり

▲はんのあをかみきり

▲しなのかみきり シナノキ害虫なり

▲るりほしかみきり

▲はんのきかみきり
▲けまだらかみきり
▲くろひらたかみきり
▲ことらかみきり　形態甚だ蜂に似たり故によく外敵を防ぐ事を得れを擬態と云ふ
▲ひげながごまかみきり
▲あかねかみきり
▲れほみどりかみきり
▲みどりかみきり
▲くびあかかみきり
▲ねしろかみきり
▲しろへりとらかみきり
▲しろかみきり
▲びろうどかみきり
▲まだらかみきり
▲れほくろはなかみきり
▲れほくろかみきり

▲のこぎりかみきり
▲ごまかみきり　桑の大害虫なり
▲うすばかみきり
▲せんのきかみきり
▲おほひげながかみきり　以上列記甚だせる如くカミキリムシの種類は多し而て特に北海道は其種類富むし幼虫は諸種の樹幹に穴を穿ちて棲息する故に何れも害虫と云ふ可きなり
▲れほぞうむし　象虫には種類多し種々の植物を食ひて害す
▲くちぶとぞうむし
▲あとしろぞうむし
▲あなあきぞうむし
▲ごばうぞうむし
▲れほあをぞうむし
▲たらのぞうむし
▲くちかくしぞうむし
▲かばぞうむし

▲くろほしをとしぶみ
▲こふきぞうむし
▲ながぞうむし
▲あかをとしぶみ
▲ひげながあをぞうむし
▲すぐりぞうむし
▲はつかはむし　蓮荷の害虫
▲どろはむし　白楊の害虫
▲うりばい(うりはむし)　瓜類の害虫
▲るりはむし
▲いたどりはむし
▲いねはむし
▲きんさるむし
▲かめのこむし
▲かめのこてんとうむし　此の類の甲虫は厩虫、綿虫を食ふが故に益虫なり、次に列記する如く種類多し
▲あかほしてんとう

▲てんとうむし 色々の班紋あるも變形にて凡て同一種の者なり

▲なゝほしてんとう

▲しろほしてんとう

▲ひめかめのこてんとう

▲ひめあかほしてんとう

▲廿八星てんとうむし 此れは茄子、馬鈴薯の大害虫なり前出、有益種は凡て滑かなるも有害なる本種は毛を蜜生せる故に直に區別する事を得べし

▲れほきのこむし

▲よつほしきのこむし

▲べにひらたむし

◎有吻類(半翅類)

▲るりかめむし

▲ねぐあをかめむし 共に北海道に普通なり

▲はさみかめむし

▲あかすぢかめむし

▲やほしかめむし

▲まだらかめむし

▲はらびろかめむし

▲ながめ 菜類の害虫

▲むらさきかめむし 以上記せるカメムシ類は何れも植物の液汁を吸ひて生活する故に害虫なり

▲あはふきむし八種 幼虫は樹木の枝又は葉に泡様の液を分泌して吾身を保護す俗に螢の兒と云ふ者は即ち此の幼虫なり

▲きじらみ四種 何れも植物の汁を吸ひて有害なるものなり

▲うんか(よとばい)十五種 此の類甚だ多く皆植物の液汁にありて生活す、農作物に附きて年々莫大なる損害を農家に與ふる者なり

▲つのぜみ

▲ねぐぜみ

▲こねぐぜみ 二者共に夏日山野にして本道に特に多し 大聲を發して鳴く者

▲ねぐはるぜみ 初夏の候札幌近郊の山に普通に居る 種類にして内地には稀なり

▲にいにいぜみ 鳴聲により此の名あり

▲つく〳〵ぼうし ツクツクボーシと鳴く晩夏より初秋に及びて出づ世人此の蟬の聲を聞いて秋の迫れるを知るなり

▲あぶらぜみ 夏日甚だ大聲を發して鳴く者にして内地には多きも本道には少なし

▲みづむし

▲こみづむし 一に風船虫と云ふ常に水中にあれども夜間燈火に集る性あり身體輕くして水中にある他物を抱きつゝ水面に浮び來る性あり依りて之れを器中に捕へ來り紙片等を入れば其の浮き上る様子甚だ面白く、風船の如し、風船虫の名之に依て起る

▲まつもむし 一に呼ぶ水面にあり脊を下にし腹を上にし二本の長脚を擢の如く繰りて泳ぐ

▲たがめ
▲みづかまきり
▲あめんぼ
▲しまかわぐも

◉鱗翅類（蝶蛾類）蝶類

▲あげは（柑橘の害虫）
▲きあげは（人參の害虫）
▲からすあげは
▲ゐぞしろてふ（北海道及樺太にのみ產し本道にありては菜樹を食ひ大害あり）
▲もんしろてふ（粉蝶）
▲すじぐろてふ（二者共に十字科植物の害虫なり）
▲ひめしろてふ
▲つまきてふ
▲もんきてふ（一に越年蝶と云ふ雌には黃色の者と白色のものと二形あり）

▲あかまだら
▲さかはちてふ（此の二種共に春期出づる者は美しき橙色の班紋あるも夏期出る者は黑色にして白條を有す一見別種の如し）
▲くぢやくてふ
▲こひをどし
▲るりたては
▲あかたては
▲きたては
▲きべりたては
▲ひをどし
▲シーたては
▲ビーたては
▲こむらさき
▲れほむらさき
▲ごまだらてふ（本種の幼虫はエノキを食ひ春早く孵化して樹葉未だ出ざる時は樹色を呈し新葉の出づると共に綠變す此の類皆表面は何れも相似て一見區別する事難きも裏面は夫々異なりて然も甚だ美し）
▲べうもんてふ

▲りよくしよくへうもん
▲うらぎんへうもん
▲くさべりへうもん
▲ぎんすじへうもん
▲れほぎんすじへうもん
▲めすぐろへうもん（本種は雌雄甚だ色彩を異にし一見同種とは思はれず）
▲こみすじ
▲ふたすじ
▲いちもじてふ
▲ひめうらなみじやのめ
▲きまだらひかげ
▲きまだらもどき
▲こきまだら
▲くろひかげ
▲じやのめてふ

▲れほひかげ
▲べにひかげ
▲てんぐてふ
▲しもふりしゞみ　本種は本邦唯一の肉食性蝶類にして幼虫はタケノアブラムシを食す
▲こつばめ
▲くらふしゞみ
▲こしゞみ
▲べにしゞみ
▲かばいろしゞみ
▲ごましゞみ
▲みどりしゞみ
▲れほみどりしゞみ
▲からすしゞみ
▲るりしゞみ
▲つばめしゞみ
▲しゞみてふ

▲うらなみあかしゞみ
▲あかしゞみ
▲むもんあかしゞみ
▲きばねせゝり
▲へりぐろちやばねせゝり
▲はなせゝり
▲いちもじせゝり　本種の幼虫はハマクリムシとて稻の害虫なり
▲こちやばねせゝり
◎蛾類▲べにしたば
▲をにべにしたば　以上の兩者は後翅赤くして甚だ美麗なるも翅を疊めば宛も樹皮の如くよく外敵より免る
▲すじもんひとり
▲きまだらひとり
▲くわごまだらひとり　桑の害虫なり
▲しろひとり
▲くろばねひとり　種々の作物を害する大害虫なり幼虫は黑色にして頭部赤し
▲ひとりが
▲あまいとり▲（あまじよろく）亞麻の害虫
▲かのこが
▲ごまだらきこけが
▲きまへほろば
▲ゆうまだらねだしやく　本種以下記する所の多くのエダシャク類は其の幼虫をシャクトリムシと呼び諸種の植物を害して損害を與ふるもの多し
▲とんぼねだしやく
▲ひようもんねだしやく
▲ほししやく
▲りんごなみしやく
▲よこじまなみしやく
▲うすとびもんなみしやく
▲きがしらおほなみしやく

▲きまだらおほなみしやく
▲きがしらおほなみしやく
▲ねぐろうすべにがらす
▲しろしまゐだしやく
▲おほしろゐだしやく
▲みすじきりばゐだしやく
▲すもゝゐだしやく
▲しろつばめゐだしやく
▲りんごのつのゐだしやく
▲くわゐだしやく（桑の害虫にして幼虫は桑の枝に酷似せり）
▲こすじしろゐだしやく
▲あをいらが
▲しやうぶよとう
▲あわのよとう
▲ふくらすゞめ
▲まだらよとう

▲つめぐさが
▲さいきんもんうはゞ
▲しんじゆさん
▲やままゆ（幼虫は大形にしてクヌギ及櫨を食す信州地方にては屋外の林に此れを養ひ其の作れる繭より絲を取る事行はる）
▲おほみづあを
▲よなくにさん（琉球臺灣及印度に産し全世界最大の種なり大なる者は翅の開張八寸に達す）
▲ともゐが
▲おほともゐ
▲かさん（此れ普通に飼養する蠶なり）
▲ひめあみめゐだしやく
▲さつまにしき
▲まがりきんうはゞ
▲ひさごきんうはゞ
▲きくぎんうはゞ
▲しまがすへ（しんきりあを

むし）
▲ほしかれは
▲まつかれは（まつけむし）（松の大害虫にして數町の松林此の爲めに全部枯木となる事さへあり）
▲をびが
▲きをびかぎば
▲いかりもんが
▲あをけんもん
▲なしのけんもん
▲しろもんやが
▲せんもんやが
▲かぶらやが
▲よとうが（農作物の大害虫なり）
▲しろすじあをよとう
▲しろてんあをよとう
▲もんくろしやちほこ（しりあげむし）（栗樹及櫻桃の害虫なり）

▲もんしろどくが　毒蛾の類は手に觸るゝとき
は皮膚を害す注意す可し
▲やなぎどくが
▲ひめしろもんどくが
▲まいまいが
▲かしはまいまい　擬類の害虫なり
▲のんねまいまい
▲をびかれは
▲たけかれは
▲うんもんすゞめ
▲くるますゞめ
▲ゑびからすゞめ
▲うちすゞめ
▲しもふりすゞめ
▲もゝすゞめ
▲おほすかしば　蛹より出たる時は翅に鱗を有するも一度空中を飛ぶや直は脱し去りて透明となる
▲こすゞめ
▲くろすきばほうじやく　以上のスゞメ蛾類は一にユウガチベツトウと呼び夕刻花に集るもの多し幼虫は尾端に一個の大角を有す何れも害虫なり蛾類は凡て害虫なり只カイコ、ヤママユの如き製糸用として飼養するもののみ人類に有用なり

◎双翅類（蚊、蠅、虻類）

▲あかうしあぶ　北の類は皆動物の血液を吸ひて生活す夏月本道及樺太の山野には特に此類多く旅行者の最も困難する者なり
▲あかあぶ
▲うしあぶ
▲きばらあぶ
▲ごまあぶ
▲めくらあぶ
▲つまあきつりあぶ
▲びろうどつりあぶ
▲のらはなあぶ
▲はなあぶ　幼虫はチナガウジと云て便所に居るものなり
▲おほはなあぶ
▲せすじはりばい
▲るりはりばい
▲かいこのうじばい　家蠶に寄生して之れをたゞし養蠶にとりての大害虫なり
▲くろばい
▲にくばい
▲せまだらはなばい
▲べつこうばい
▲ひめべつこうばい
▲めすあかけばい
▲しらほしまだばい
▲ひらたあぶ一種　此の類の幼虫は蚜虫を食ふ故に有益なり
▲ひめむしひき　諸種の害虫を殺して農家に有益なる者なり

▲むしひきあぶ同前
▲あかむしひき同前
▲せあかおほいしあぶ同前
▲おほいしあぶ
▲おほがゞんぼ此の虫は有害なり
▲べつこうがゞんぼ
▲きりうじがゞんぼ
▲はまだらか
▲のみ幼虫は塵芥中に生育する者なれば屋内は力て清潔にす可し

◎脈翅類

▲くさかげろう（優曇華）此の種の卵を俗に云ふ幼虫は蚋虫を食ひて有効なり
▲ひろはかかげろう
▲うすばかげろう幼虫は砂地に擂鉢狀の穴を作りて生息す、蟻等の過ちて此の穴に陷るや再び砂壁を昇りて逃れ出づるに由なく、遂に此の者の餌食となる故にアリヂゴクの名あり
▲へびとんぼ
▲せんぶり
▲しりあげむし
▲ひげながとびげら本種及以下數種の幼虫は共に木片又は小石等にて水中に巣を作り生活す、これを石蠶（イサゴムシ）と云ふ
▲つまぐ
▲つまぐろとびげら
▲むらさきとびげら

◎擬脈翅類

▲かはげら
▲あみめかはげら
▲かげろう
▲もんかげろう僅かに一日にして死する故に古來有名なり
▲かはとんぼ以下記するものは凡て益虫なれは猥りに殺す可からず
▲みやまかはとんぼ

▲いとゝんぼ
▲さなへとんぼ
▲おほさなへもどき
▲おにやんま
▲しをからとんぼ
▲しをやとんぼ
▲よつぼしとんぼ
▲ねぞとんぼ
▲みやまあかね
▲まゆたてあかね

◎直翅類

▲くぎぬきはさみむし
▲こぶはさみむし
▲ひめはさみむし
▲ちやばねごきぶり船内及厨房に繁殖して食品を害するものなり
▲ひしばつた

▲きりぎりす
▲いぶきゞす
▲ばつた　農作物の大敵なり、其の群をなして來襲するや天を蔽ふて日光を遮る事あり其食害甚だしく學村青葉の蔭だも見る可からざる事に到る事往々あり
▲なきいなご
▲いなご　稻の害虫なり然れども燒きて食ふ事を得
▲つゆむし
▲ふきばつた
▲くびきりばつた
▲かんたん　札幌の郊外に甚だ多く之を産し秋期其聲雨の如く繁し雅にして中に哀調を帶びたり
▲かまどこほろぎ
▲こほろぎ
▲けら　農作物の根を食ひて頗る有害のものなり夏月濕地にて俗にミヽヅが鳴くと云ふは此の者の鳴聲に外ならず

◎眞正蜘蛛類　此類に屬するものは性貪食にして有害なる昆虫類を食するを以て農林業上大に保護せざるべからず

▲どろぼうぐも
▲ながぐも

◎生態標本の一（日本産熱帶蝶類）

▲きしたあげは
▲あをもんあげは
▲もんきあげは
▲しろをびあげは
▲たいわんたいまい
▲くろたい
▲をなしあげは
▲めすぐろしろてふ
▲まだらしろてふ
▲べにもんしろてふ
▲あかねしろてふ
▲めすじろきてふ
▲きてふ　發生の時期により色彩を異にす
▲しろすじまだら
▲ふたをてふ
▲すみながし
▲しろみすじ
▲いしがきてふ
▲じやのめたてはもどき
▲あをたてはもどき
▲たてはもどき
▲りうきうむらさき
▲つまぐろへうもん
▲わもんてふ
▲るりもんじやのめ
▲このまてふ　以上の蝶は臺灣及流球に産する者にして其の内只數種は本州及九州にも産す

◎生態標本の二（日本産熱帶蝶類及蛾二種）

▲つまべにてふ

▲うらなみしろてふ
▲あさぎまだら
▲すじぐろかばまだら
▲れほごまだら
▲りうきうあさぎまだら
▲ながさきあげは
▲ひめたてはは本種は全世界に廣く分布す
▲このはてふ翅の表面は美しき色彩を有するも一旦翅の裏面を表はしてとまれば其の形は其の色共に枯葉の如く一見識別する事困難なり
▲ふくらすじめ翅を疊みたる時は其の色甚だ樹皮に類す
▲さくさん及其の繭此れより一種の絹絲を

◎物を製す
◎峰鳥此は鳥類中最小の種類にして大さは昆虫に等しき者あり、種類頗る多く何れも極めて美麗なり常に花間を飛翔しては花蜜及昆虫を漁むる事なし、決して翅を休むし、翅の際一種の音を生じ其の形の小なる

と相待ちて峰に似たり、故に峰鳥と云ふ、此の類は世界に於て唯南北亞米利加のみに産す

第十五號函　鳥類

目と標本の番號　長翼類78より92、短翼類93より106まで

▲78あほうどり◎一六、四、後志國小樽
▲79あほうどり◎二九、三、後志國高嶋、本類中に於て最大なるものにして四月下旬の頃餌と去來を共にす、羽毛は織物の原料として貴重せらる本邦輸出品の一なり
▲80はいいろみづなきどり♀二七、七、後志國小樽
▲81こしじろうみつばめ九、千嶋擇捉
▲82はいいろうみつばめ◎三、五札幌
●83とうぞくかもめ♀二三、九、後志鏡函
●84しろかもめ◎三二、二、後志國小樽
●85同稚三〇、一一、札幌
●86れほせぐろかもめ♀二八、贈振國室蘭
●87同◎一五、五、後志國小樽
●88うみねこ◎一四、九、贈振國白老
●89ひめう贈振室蘭
●90かもめ◎三二、一〇、後志國鏡函
●91ゆりかもめ◎夏羽九、七、後志國高島
●92同♀冬羽三二、一〇、後志國鏡函以上鷗類は海濱に棲み魚類を食す時に沖合魚の群集する所に捕魚集合し沿岸漁家に群を知らしめ初有益なり、初秋より多く鳥類の便を夏期は産卵地なる渡島國大島小島、千嶋最も夏の頃列嶋に大半移り行く
●93うみがらす◎二六、九、後志國小樽
●94うみすゞめ♀千島國擇捉
▲95ちじまがらす千島擇捉
●96ゑとぴりか◎千島擇捉
●97うとう◎二八、三、贈♀振國室蘭

▲98しまつ♀贍振♂室蘭

●99ゑとろふうみすゞめ♀二三

三、釧路厚岸

●100こうみすゞめ♀二七、三、札幌

●101はしじろあび♂二八、三、後志國小樽

●102おほはむ♀二二、一、札幌以上鹹水産

●103同♂二二、一、同なり魚類を餌食とす

▲104あかゑりかいつむり♀三○一○、後志國鏡函

▲105かいつむり♀二三、六、札幌

▲106同雛同、同、淡鹹兩水に棲み魚を食す本道にて産卵繁殖す

◎骨格類

▲おほはくてう

▲くまたか

▲かはあいさ

▲からす

▲あをさぎ

●ふくろ

●やまげら

▲かはせみ

▲すゞめ

●むくどり

▲べにまして

▲しめ

●よたか

●あかげら

第十六號函　鳥類

◎保護鳥類の一

本道に於ける現行法の保護に係るもの及保護に洩れたる有益鳥類を特に蒐集し努めて之れが自然の狀態を保たしめ有害動物類を餌食し間接に農林業等に有益なる動作の實況を知せしむ、茲になきは次函第十七號及函外にあり

▲107しまふくろ♂二九、二、札幌、野鼠、魚類を食とす本道に特別なる種なり

●108ふくろ♀二四、一、札幌

●109おほこのはづく♀三四、一、札幌以上二種は四季林中に棲み夜中原野田圃の邊を飛翔し野鼠、蛙、小禽を食とす

●110きくいただき♀三○四、札幌又まめまはしと稱す、春秋の二季松林中に多し樹皮に居る昆虫を食とす二四、六、

●111ぬゑじない♂二四、六、

●112くろつぐみ♀二八、一○、札幌

●113しろはら♂二五、七、同

●114あかはら♂二四、六、札幌

●115まみちやじない♂三二、六、同

●116のごま♂三八、一○、同

●117きびたき♂二七、四、同

●118るりびたき二五、五、同

●119のびたき♂二五、五、後志國鏡函

●120しじうがら二一、一、札幌

●121ひがら♀二七、一一、

●122こがら♂二七、一一、

123 しまゑながゝ同一七、三、
124 みろさゞいゝ二八、一一、同
125 ひよどり♀一三、二、同
126 おほよしきり♀三八、七、同
127 きまはりゝ四〇、一〇、同
128 おほもづゝ二七、一一、同
129 もづゝ二六、五、同
130 むくどりゝ一五、四、同
131 しまむくどり一五、五、同
132 うすずみせきれい♀二一、三、札幌
133 せぐろせきれいゝ二七、一、同
134 きせきれい♀二四、五、同
135 びんずいゝ三八、八、同
136 たひばりゝ三一、一〇、同
137 ひばりゝ三八、四、同
138 しやうどうつばめ♀二一、六、同
139 きじばとゝ一三、八、同
140 あをばとゝ一三、八、同
141 かつこうゝ二三、八、同
142 つつどり♀二三、七、同
143 はりをあまつばめゝ一七、六、同
144 よたかゝ三三、九、同
145 むなぐろゝ三八、一〇、同
146 だいぜん♀三五、一〇、石狩國丘珠
147 じしぎ♀及雛二三、九、札幌
148 やましぎ♀及雛一七、五、
149 ゑぞやまどり♀三六、六、札幌

第十七號函 鳥類

◎保護鳥の二 第十六號函の續にして本道に產せざる鳥類をも加へたるものあり

150 くまげらゝ♀札幌、本道特種の鳥にて啄木鳥中最大なるものなり
151 こあかげらゝ三五、九、札幌
152 ゑぞおほあかげらゝ♀札幌
153 やまげらゝ♀同本道特種の鳥にして雄似す、雌雄同色にあかげらに酷の後頭部に赤点を有す
154 こげらゝ♀一五、三、札幌
155 あをげらゝ東京、本邦津輕海峽以南の地に產す
156 あかげらゝ♀一三、九、一二、八、札幌
157 かはからすゝ一七、三、札幌河川の邊りに棲み水流に潛し巧に小虫を捕食す
158 よたかゝ三九、五、札幌又かすいとりと稱す田圃の附近に棲み、薄暮飛びつゝ昆虫を食ふ、本道に產卵す
159 あをばづくゝ♀四三、八、札幌野鼠、蛙を食す、本道に產卵す
160 らいてうゝ♀四一、冬羽千島占守
161 のすり♀四三、九、札幌、野鼠を食ふ農林に益あり本道に產卵す
162 しろふくろ♀一七、一一、曙振國千歲
163 こみみづくゝ二一、一、札幌

●164 きんめふくろ♀三二、二、石狩國島松、

●165 このはづく〇四〇、九、札幌、本類に屬するも時に小禽のは專ら鼠を常食するを食することあり農林に益あり

●166 きれんじやく〇四〇、二、札幌

●167 ひれんじやく同、同、共に冬季のみ本道に棲み

●178 ゑぞせんにう〇二六、六、札幌、本道特ヤドリ樹の實を食ふ

種なり、夏季原野に棲み産卵す、鳴聲牡鵑に酷似せり、昆虫を食ふ

●179 やまがら〇四二、一一、札幌

●170 こさめびたき〇二二、八、札幌

●171 あかひげ〇四二、七、下野日光

●172 こまどり〇三八、六、北見國宗谷

●173 しをさゞい〇三九、七、札幌、低地に棲み昆虫を食す

●173 しませんにう〇二六、六、札幌

●174 うぐいす三一、一、札幌

●175 こうぐいす♀三八、一〇、同

●177 こよしきり〇三九、二、同

●178 かやくぐり東京

●179 きばしり♀二三、三、札幌、林中に棲み樹木に蠹居せる虫類を食ふ

●180 さんしよくい横濱

●181 いろひよどり〇一二、五、函館海濱に棲み本道にて産卵す

●182 さんくわうてう♀渡島國及〇大和

●183 おほるり〇二七、六、札幌

●184 いわひばり飛彈國乘鞍

●185 せつか東京

●186 せんだいむしくい三二、六、札幌

●187 つばめ函館

●188 たましぎ〇八、四、東京千住

●189 ちごもづ〇二八、一二、東京

●190 めじろ♀三七、一〇、札幌

●191 あをしぎ八、一二、函館、冬のみ本道に棲むも多か

●192 こぢしぎ五、一、函館

●193 おほしぎ三八、一〇、函館

●194 まみじろあじさし四一、南島島

●195 しろあじさし同

●196 あじさし♀四二、九、札幌

●197 198 こうみすゞめ〇三三、一、札幌

●199 うみすゞめ〇二六、一二、後志國小樽

●200 しらひげうみすゞめ♀千島占守、根室以北に棲み産卵する種にして以南本島にては多く見る事なし

●201 ゆりかもめ♀三九、一〇、後志國錢函

●202 かもめ〇三二、一〇、同

●203 づぐろかもめ〇三四、九、石狩國石狩

●204 おほせぐろかもめ〇三七、札幌

●205 せぐろかもめ二八、三、後志國小樽

●206 うみねこ♀四〇、五、同

●207 まがも〇二六、二、後志國小樽内

●208 ひくいな♀同兒 三八、七、札幌

●209 ぱん♂ 四〇、五、

●210 うとう 四〇、同、贍振國室蘭

●211 しやうじやうさぎ♂ 常陸國水戸

●212 へらさぎ 三九、五、函外にあり

●213 だいさぎ 東京

●214 こさぎ 東京

第十八號函 魚類

第五段南より始まる

非喉鰾類軟鰭類 1喉鰾類有腹鰭類、自2至9

▲1 なんたら 後志高島

▲2 あめます 贍振、千歳、湖中に停るものは形小にして「いわな」の名あり

▲3 ますび 石狩、北海より本州内海及長門附近迄分布す、五六月頃河川に泝り八九月頃に至れば砂礫中に産卵し、仔魚は秋、海に下り翌年四月頃泝上す、又終生池湖中に閉鎖せらるも清き水源あれば産卵することを得本道の年額四万円なり湖中に停るものを「あめのうを」又「やまべ」と云ふ

▲4 ますの兒 石狩石狩

▲5 べにます 根室、湖中に停るものは形小にして「ひめます」カバチエップの名あり

▲6 せこぶます 根室、背は隆起して瘤狀を呈す、其最も高き所は体長の半に及ぶものあり

▲7 ますのすけ 石狩

▲8 さけ 石狩、鮭なる水産物と共に本道の主要産額大にして一ヶ年十九万圓に及ぶ贍振國千歳郡鳥柵村に設立せる鱒孵化場千歳孵化場に於て年々一千五百万粒の卵を孵化せば實に貳拾六里の長さに達す、♀♂

▲9 さけの兒 日高浦川

第四段北より始る

非喉鰾類軟鰭類、自10至24、喉鰾類有腹鰭類、自25至27、

▲10 ぎひよう 後志小樽、体は細長なり体色暗く褐色を呈して黑白の斑点を有す、大なるは六尺餘に達するものあり、本道殊に北見の沿岸に饒多にて漁獲すはへなわを以て

▲11 やまぶしかれい 後志高島、目は大なり全身は大なる櫛鱗に依て覆はる、背鰭及び臀鰭にはたかのはがれいの如く黑き斑紋あり

▲12 びさがれい 後志小樽、まがれいに似たれど頭部に五個の棘が一列に並で居ること、側線に副枝を有することに依て區別せらる

▲13 さめがれい 石狩増毛、有眼側密接に並置さる、其狀恰も鮫の皮膚に似たるを以て此の名あり、北海に多し

▲14 ばゞがれい 贍振苫小牧、体は小判形なり頭及び口は小く然し側線の前部に於て低き弓形を呈して其側線上に側線孔あり

▲ひらめかれい類につきて通常ひらめ類は体の左側黑くして目あれど、かれい類は右側黑し然れども時には眼は各側にあり本道年産額凡十三萬円あ

▲15くろがしら　後志鏡函、全身ざら〳〵した櫛鱗を以て覆はる、多くは背鰭及び臀鰭に黒き斑紋を有す、北海に多くして、まがいに次ぐと云ふ、三月頃最も多く漁獲せらる

▲17たかのはがれい　後志小樽、如くなり左側に目を有す、眸表ひらめの鱗の如く散在せり背、臀鰭には鷹の羽の如き板黒き斑紋あり、北海殊にべーリング海に豊富なり、米國にては平洋に於て漁獲せらるかれい類の過半を占む海に棲息し時々河川の上る其分布最も廣く食用として價値なきものなり

▲18だいしやうじがれい　後志忍路、外觀くろがしらに似たれど側線に副枝と側線孔に依て識別容易なり、其産額は北方に行くに從ひて増加しべーリング海に至りて其極度に達す

▲19あかがしらがれい　後志忍路、そうはちがれいに似て共にこつく海に饒産し兩眼は相對す、其間は狹く齒は一列を爲して大なり

▲20ろうはちがれい　後志忍路、眸形あかがしらがれいに似たるも上眼は殆と頭の上縁にあり下眼より少し後方に位す兩眼の間前者より廣し齒は小形下顎には二列を爲す

▲21すながれい、鰭振小牧、まがれいに似たるも眸は小なり、眸色淡色にして微細なる白の斑紋散在すること砂の如し、故にこの名あり

▲22ひらめ　後志忍路、本邦近海至る處に産す、從ひて食膳に上ること多し、かれい類と異なり其目、眸の左側にあり

▲23まがれい　後志小樽、くろがしらに似たるも後部は粗造なる櫛鱗より成り前半は平滑なる圓鱗より成ること前者と異なる魚は本道沿岸に最も多く其肉は美なり産卵期は二、三月頃にして漁獲多し

▲24なめたがれい　後志忍路、ばゞがれいに似て側線は殆と一直線なるを以て異なりとす北海に豊富にして其味佳ならず

▲25やまめ　後志忍路、そうはちの河湖に止まりて其形態の變化せるものなり

▲26かばちねつぷ　鰭振千歳、べにますの河湖に止まりて其形態及び習性の變じたるものなり

▲27うぐひ　石狩國石狩、大なるもの尺餘に達す、常に河湖に棲む性溫順淡鹹水に好み四、五月頃水邊の雜草に産卵す

▲28とんこ　後志忍路、胸鰭、背鰭、臀鰭は甚大に木葉の水中に浮動せるが如し

▲29ごつこ　後志忍路、棲海の海藻に棲む、眸球形盤狀にして頗る軟かなる處に腹鰭は吸盤となりて岩礁に附着す、北海には多し

▲30かます　渡島國森村、大なる者は尺餘に達す五、六月頃産卵す

第三段南より始まる

◎硬鰭類自28至32、自41至43、軟鰭類、自33至41、喉鰾類、無腹鰭類、40

▲31ぼら　渡島函館、内灣、河口等の牛鹹水に群棲し遠洋に出づ夏期一度四方に散じ秋季再び群集す、泥中の有機物を食じ遠洋に出づること稀なり

▲32はた〳〵　後志小樽、北海及び二年生冬の交に産卵す、一年生を東北地方の特産にしおぼこ三年生以上をぼらと云ふ秋冬の其卵は比較的大にして食用に供せらるなるを云ふ

▲33きうりうを 膽振苫小牧、さけまゝの如く河川に泝上す其味佳ならず

▲34ちか 根室國根室、一名わかさぎあり本邦にて稱す陸長五寸に達する東京にては東北に達するむより三月頃産卵分布す、常に淡鹹に棲む水苦小牧、膽振短稍小海にて

▲35むつ 腹部圓く東海に棲み殼類し、軟體多く産卵す、東京食深し

▲36あゆ 膽振苫小牧、鮭形の礫間に棲み頃殼類し、軟體多く産卵す、一、二月頃産卵す、來食深し

▲37しゐしやも 釧路國 渡島尺餘石崎常に海に棲み、長大なる至所るもの、通常海に産卵す、三、四月頃河川に産し、沂り、砂礫に産卵なす、三週間位に孵化し、二寸位にて産卵す、後海に入れば産卵せざるものあり、上河に下るものあり、又は深淵に越す、産卵の如く甚だ衰弱し、斃死す、河年を經て産卵す、本道にては産額少し

▲38ぎど 膽振苫小牧、鮭形褐にして黑き斑紋を有す、羽前庄内、大貌なるもの五六尺五六寸に達す、鮭色暗なるもの似たり、觸鬚は下顎と同じく二一本の個の背鰭を有すること異なり、背鰭には胸鰭と防ぐ、其他二個の棘を有して外敵なまづと

▲40わらづか 釧路國 膽振苫小牧、鮭形如く長く、一

▲89なまづ 羽前庄内、觸鬚は各顎に一對あり、湖沼河川等の水底に棲み、運動不活潑にして游泳すること稀なり、夜間出て食餌を取る、本道にて産卵す、産卵頃多くは近來養殖せんと計畫せずあるもの

水中より取り上ぐる時はぎゞと云ふ音を發す故に此の名あり

▲41たちうを 後志高島、鮭長く六尺餘に達するだしく側扁にして尾鰭は細く糸狀をなす、本邦にては九州等に於て減ひ中國に達し、北海に棲み常に群を爲し朝夕水深の海上に從ひて多く産卵す

▲42やなぎのまい 後志視津、此魚はそいめばる類に近し

▲43ろい類 大なるものは尺餘に達す北海道沿岸に特有のもの多く、海藻繁茂せる岩礁に附近に棲む五、六月頃産卵す、胎生魚なり種類多し即ち

▲くろぐい 小樽

▲しまぐい 後志視津

▲ごまぐい 小樽

▲まぐい 小樽

▲あかぐい 小樽

第二段北より始まる

◎硬鱗類自44至52、60自62至65、軟鱗類59 61 66 67、固顎類自53至55、58、總鰓類56 57、喉鰾類、有腹鰭類68 69 70

▲44とびうを 後志小樽、鰭大にして水を出てよく飛行す

▲45とくひれ 後志小樽、全身硬鱗にて被はれ目と吻の上に突起を有し、一見鷄の如しより佐渡地方にては之を龍宮の鷄と云ふ、本道近海に夥しく産す

▲46ざぶらう 膽振國苫小牧

▲47はつかくを 八角魚、體形八角なるを以て此名あり

▲48とうべつかじか 後志、小樽、

▲49かはかじか 後志視津

▲50ぎすかじか 後志小樽、本道沿岸に多し

▲51 ほうぼう 後志小樽、胸鰭の一は三本の指狀の刺に變す、之を以て海底を這ひ餌を求む東北に多く產し五六月頃產卵す

▲52 かながしら 函館ほうぼうに似たるも胸鰭小なり

▲53 かわはぎ 函館吻尖り口小なり頭の上に一本の棘あり、齒は集合して餌を吸ひとり食ふ鱗は微小にして絨毛の如し故に食ふに皮を除く海藻繁茂する所に棲息す

▲54 はりせんぼん 石狩增毛、奇形にして全身刺を以て被はれたり

▲55 はこふぐ 後志高島、体表は六角形の硬鱗恰も數石の如く被ふ、外形箱の如し、依て此の名あり

▲56 たつのをとしご 東京、頭ほたるに似て一名海馬の名あり常に直立して游泳し尾は他物に格みつくを得、雄は腹部に一種の被囊を有し其の内にて卵を孵化せしむ

▲57 やうじうを 後志忍路、体形細長にして楊子に似たり、海底に逆立して砂中の小動物を捕食す、其狀頗る奇態なり

▲58 まふぐ 後志小樽、各地の濱海に產す外敵の襲來に遭ふ時は胃中に空氣を吸入して水面に浮び腹を上に向け外敵を防ぐ、四五月頃產期には生殖器と肝に河豚酸と稱する毒を含む此時期にふぐを食ひ中毒するはこれによるものの如し

▲59 ぎんぽ又がづなぎ 根室國根室近海の海藻中に棲み、夜徘徊して餌を求む、北海に多く十月頃岩礁の間に產卵し、雄魚之を保護す

▲60 さわら 膽振室蘭、體長三尺餘に達す、全國に產すれども高さ六尺餘北海には少し

▲61 さんま 函館、遠洋海面に浮游し其性驚き散じ易し十一月頃產卵す、北海には少かりしが近來群すること稀ならず

▲62 さば 函館、群すること散じ易し十一月頃產卵す、日本海岸に多し群游して屢々內灣に入る、五月より七月まで產卵す

▲63 ささがつを 膽振室蘭、背部に篠の葉に似たる斑紋あり

▲64 まあじ 函館、鱗は剝離し易し、北海西南沿岸には三四月頃產卵の爲め灣內に群集す

▲65 いとまきあじ 膽振室蘭

▲66 ひしこ 渡島根法華、產卵期は三月乃至六月なり此種の少なるものを「シラス」と稱す其乾製したるものを魚の乾製したるものを「ゴマメ」と云ふなり

▲67 いかなご 函館、後志高島、幼魚は白色なる異名こなご、成魚は背は淡蒼色腹は淡し近海に棲み六月頃產卵期となれば淺海に群來し此時生食するのみならず魚醬をも造るなり

▲68 いわし 膽振苫小牧、各地に產すれども就中太平洋岸に多く產額約七百萬円にて本道にては約六萬圓の漁獲あり

▲69 こにしん 釧路厚岸、にしんより小形なり本道沿岸に多くして秋冬に漁獲せらる

▲70 にしん 後志小樽、大なるものは一尺余に達す本道殊に西海岸に饒產し本洲にも稀なり常に遠洋に在り陸及北陸以北にして產卵の爲め海藻茂繁する沿岸に群來す本道に於ては年產額三四月の交に群來し數十萬円に達す

南より始まる

◎圓口類72、鮫類自72至76、92、93、鱏類87、88、喉鰾類無腹

鰭類79 86 91、硬鰭類81 82 83 84 88
94 95、喉鰾類有腹鰭類86 86 85
89 90

▲71 かわやつめ 札幌、口は圓くして、漏斗狀を成し、尺余に達し、常に海中に棲み、他物に附着す、時に他の動物に吸以て其の口の周圍に鋸狀の齒を有し、其の側に鋸齒あり、其の兩側に黑き斑紋の帶横たはり、其の肉可ならず、故に北海に極めて少なし

▲76 つのざめの卵

▲77 あかねい 後志小樽、胸鰭甚だ大なり、尾上に劍狀の棘あり、其の兩側に鋸齒を有し、之れを切斷すれば甚だ危險なるもの、外敵を防ぐ、漁獲と同時に吾國西南海に多く、北海は三尺余に及ぶ

▲78 とびねい 後志小樽

▲79 はも 函館、齒は甚だ強く、貝類をも碎きて食す

▲80 うなぎ 後志半鐘、半動物鹹物水に棲み、水を食す、通常淡水に出で、夜間に游泳し、雄は半鹹物水をあす、雌は秋冬の交に腰を殖す、即ち生殖期に至れば雌雄共に産卵す、其の産卵は河海に入り、深海の底に柳葉に似て体色は透明なり、魚は三寸位に成長し、海位は無色なり、之れは二寸位なれば色素を生ずるも、尚一年は次短鰡にして筒狀なれば親魚に至る、親魚は酷似して体長再び四三寸頃に至るも、之れを經て成長すると、各地に産卵し、河川に溯り、各年漁獲し、蒲燒として珍重せらる、高約百万円に及ぶと曰ふ

▲81 たい 佳なる魚類中第一なり、第十九號函上段の南端に近く此の魚の剝製標本あり

▲82 かや 石狩增毛、胎生魚なり、北海の特産にして其の肉可ならず

▲83 しまよこだい 函館近海に産し、毛の班紋の帶横たはり、黑函館体に産し、水邊の雜兩に水り

▲84 しらうを 函館、四五月頃、淡鹹の混交する處に停り、産卵す、本道には産額少なけれども本洲にては食用として珍重せらる

▲85 どじやう 函館、体長普通五六寸なれども本道に於ては一尺に達するもあり、口圓にして、本の鬚を布す、常に泥中に潜み、皮膚は粘質にして、富む、常に沼澤に游泳し、稀なり、時々水面に浮び空氣を呼吸す

▲86 しまどじやう 札幌異名たかのはどじやう、全身に黑き斑紋を存す、食用に位し、札幌、淡水産にして上は普通のどじやうに似て、背に七至九の棘を存し、以て外敵を攻擊す、巢を營み雄魚は之れを保護す、後志忍路に大なり、体トゲウに似て背大なり、通に二本づゝの棘を有す、胸に一本の棘を有す、常は海に棲め、鱗は極めて大なり

▲88 かわさば 春季は河川に溯り來る

▲75 つのざめ 胎兒

▲73 こばんざめ 吸着器にて他の側面に吸着して食餌を採るを以て著名なるもの

▲72 すなやつめ 札幌、形態カワヤツメに似たるも体長五六寸に止まる、四五月頃河川清水中に群集産卵す、後志高島、頭上大の吸着器にて他の船舶の底、側面等に吸着して食餌を採るを以て著名なるもの

▲74 ばらうを 函館、体形の美、其の肉の佳なること約四百万円、第十九號函上段の南端に近く此の魚の剝

▲89 こひ 札幌、世界各國に産す、主に植物性の物を食す、四五月頃水藻の繁茂する處に來りて早朝産卵をなす

▲90 ふな 札幌、体長二尺に達するものあり、近時鯉と共に養魚業盛となれり

▲91 うなぎ 鯛類

▲92 さより 渡島森村、西南海に多く東北海に至るに從い減少す、近海魚にして水の上層を游泳し時に飛躍す体は長圓形下顎は突出す

▲93 だつ 異名おさざさより、なざさより 贍振苦小牧、味可ならず

▲94 うみたなご 後志小樽、外觀クロダイに似たれど吻端較や狹小にして目胎生なり

▲95 ぼつけ 後志祝津、体長大なるものは尺餘に及ぶ各地に産し本道沿岸にも少なからず近海魚にして遠く去ることも少し、いそあいなめ、あぶらこ、あぶらめ等の異名あり

▲96 こまい 根室國根室 中最小のものにて大なるものも尺餘に過ぎず其卵の鹽漬は甚だ優良美味なり

▲67 すけとうだら 後志小樽、北海に多くして冬季に漁獲せらる

▲98 まだら 函館、体長三尺餘に達し口極めて大なり北地寒冷の深海に群集し大食を爲す鰓腹の言之れより起る北海道殊に其も多し本洲にては常陸及び長門以北に多少産す、本道重量の水産物にして年産額約十數萬円あり肝臓より肝油を製す

第十九號函 上段南より始まる

◎大頭類99 硬鱗類100 自105至108 自110至118 鮫類102 103 自121至124 硬鱗魚類101 喉鰾類、有腹鰭類104 固顎類109

▲99 ぎんざめ 利尻、頭は大なり、口は小にして下面に位し、体色銀白色にて平滑なり、尾は細長となりて糸狀となる、雄には起伏在り一突起を有する以て容易に雌魚と區別せらる、本邦近海に二三種あれども本道には極めて稀なり

▲100 ぶり 後志余市

▲101 てうざめ 石狩國石狩、体は紡錘狀を爲して其皮面に硬鱗を五行に排列す、大なるものは六尺餘に達す、本道天鹽川、石狩川等の大河に棲息す其腹子は「カビア」と稱する食品を作る

▲102 ぼしざめ

▲103 をながさめ 後志小樽、其性質強暴貪食なり、鱗は皮を剝ぎて乾燥し、鰭の翅として食用とし支那に輸出せらる、肉は魚餌を製するに適す

▲104 いとうを 石狩國、石狩、体形さけに似たり、体長三尺餘に達す全身に小さき黑点あり、幼時河川に上る

▲105 かつを 後志余市、体長二尺に達す、日本海沿岸に少し、太平洋岸に多くして体幅圓形に六七月頃産卵す、体筋頗る發達せる鰹節に製す、本邦の年漁獲高約百萬圓あり

▲106 ろうだかつを 後志小樽、其習性かつをと同じ

▲107 めかじき 後志高島、大なるものは丈餘、上下顎は亦狀かなし、顎は延長して劍尖鋭なるも上顎の三分の一に達せず、背部は碧藍色を帶ぶ、西南海に多く八、九月頃近海に來游して産卵す

▲108 めかじきの上顎骨 日高浦川 あいぬ人口は濶く齒なし

之を使用す

▲109 まんぼう 後志高島、鰾は圓盤狀なり、皮膚は粗造なり、背腹の兩鰭は上下同樣に直生す、口は至て小形なり、鰾長、丈餘に達す、其鰾の廣さ四疊敷に及ぶものありと云ふ

▲110 しいら 後志高島、頭部恰も烏帽子を冠れるが如し、其顏れこに似たるを以て一名れこづらとも云ふ、我國にては西南海に產す、其運動敏常に海岸の上層を游泳す、且つ音響を恐れず、反て之活なり、七八月頃產卵す、を聞き來集す

▲111 ばせうかじき 後志高島、全形及び習性めかじきに似たるも前背鰭頗る濶大にして芭蕉の葉の如し

▲112 しび 後志高島

▲113 ひらさば 後志小樽

▲114 すゞき 函館、鰾は橢圓形なり、大なるものは三尺に達す全國に產し、近海藻の繁茂する處に常棲し、夏期河口に產卵す、下冬季海に於て河口に產卵す、其稚魚をふつご或はせいごと云ふ

▲115 くちぐろだい 後志國高島、全身はたいに似たれど、鰾長に直角に五つの黑色の斑紋帶あり、其第一の斑色帶は口部に及ぶ故に此名あり

▲116 たひ

▲117 いしなぎ 後志高島

下段南より始まる

▲118 あんこう 頭は扁平にして刺多し、眼は頭の上面にあり鰾長三尺餘に達するも甚だ濶し、口は甚だ濶し、觸鬚の末端に軟辨あり、小動物を誘ひ之を食す

▲119 あかゐ 東北の海に多くして西南海には少し

▲120 しび

▲121 かとうざめ 後志高島、北海に多し四五月頃胎生し一產に四兒なり

▲122 つのざめ 後志祝津

▲123 しゆもぐざめ 石狩石狩、鰾長丈餘及ぶもの あり、頭部は横に延び橦木狀を爲す眼には突出せり、多くは熱帶に產し本道には稀なり

▲124 ほしざめ 渡島、膽振釧路

貳 植物標本類

第二十號函

北海道產樹木、木材

▲かつら 材質柔軟にして易き を以て刻板に作り又裁板に適せり家屋、橋梁、造船、圖板、器具、履齒、箱類、煙草盆、釜蓋、鉛筆材等に作る

▲ひかつら かつらと同種類なれども其材赤色を帶ぶるを以て俗に之を分ち建築材として賞用せらる

▲こぶし 屋柱、船具、木履、燐寸軸木等に用ひ盆栽又は庭木となし花蕾は之を以て藥用として、アイヌ人は此樹皮を以て菜に代用し又之を藥用に供す

▲ほゝのき 板、彫刻、旋盤、又具、物鞘、刻殊に木履、船具、匣類、印判、製材に賞用し又鉛筆用絲器、枠ゆ、其木絲灰は有すに用ひ以て漆器堅硬微細の質を上げ琢磨料として賞用す石の仕上げ

▲しなのき 材には箱類、器具及び薪炭に供す、此屬の嗜好花は藥劑として用ひ又花蜜を生ずるものにして佳良

以て米國東部に於て養蜂家は之れを路傍に植ゆるものありとの事なり

▲さんせう　單筒、燈木、杖等を造る又旋工用とす　嫩芽は香氣ありて調理用とす

▲さはだ　建築瓦材に用して箱類、器具、旋盤用に供し皮は染料とし又藥用に用ひ味は甘し實は寒熱を生食し外皮は厚き栓質なるを以て之を剝取し取て漁網の浮を作る「アキヌ」山河徒歩比利亞人は外皮は代用す又「アイヌ」は皮屋を覆ふべく壁板にも合せ用ひ又薪炭の際足指の腐爛したる際其實又は內皮を細切して之れを用ゆれば即ち効あり之を賞用す

▲にがき　諸器類、器具、荷馬車、農具の箱類に用ひ又曲物を作る葉の味至て苦き農家之を驅蟲劑に用ゆアヌ人此を以て之を藥に供し苦味質を有毒なり頭瘡膿腫に用ひ又虱の驅蟲藥となす

▲いたや　屋柱、雪車、刀鞘、刄柄、杓子農具柄、槌等に用ひ又薪炭の良材なり早春樹液を煎じて佳良の砂糖を製す

▲めいげつかへで　材質白色堅靭年輪界は明瞭なるも滑澤ならず肌理細密にして微赤色を帶び甚だ狹く帶黃邊材は淡灰白色心材帶黑褐色

▲いぬねんじゆ　白色心材

▲さくら　屋柱、定規、杓子、建築材料に供し印判、盆、椀、栽板、細工臺、器械、齒車、小器具類に用ひ樹皮は曲輪を綴り或は船櫂、箕、箒の類を編成す櫂、矢筒を包む花板は鹽藏し又は食し又は苗を植て庭園に植て賞せ作て酒を醸し花の砧木となすべし桃の砧木となすべし

▲うはみづざくら　細工、小家具、板、小盆、類に作り實は鹽藏として酒料とし根は染料に供すべし

▲なゝかまど　材質白色にして淡黃色を帶び秋材は稍暗色を帶び全輪の境界は明瞭なるも密度の堅硬なるを認め得べし材は緻密にして微紅色を帶び淡紅褐色の導管は肉眼にては見易からず年輪一般に擴布す射出髓線細微なり材頗る硬し

▲はりぎり　建築、器具、河艇、船材、鎗柄、棒、盆、膳、木履、小器具に用ひ其嫩芽は食ふべしと云ふ

▲こしあぶら　邊材は廣く淡灰白色にして光澤あり心材帶黃灰色なり有孔層は橫斷面上不明瞭に導管は廣く射出髓線は細かにして材は堅硬粘力あり折れ難く木理正靈平滑なり斷面は著しく平滑なり

▲みづき　農具又薪炭、器具、河艇、舟具、楊枝材と光澤を生ず

▲やちだも　家材、天秤、農具、杷柄、戶車、盆、椀、臺等に又鐵、道、枕、木にも賞用す

▲あをだも　木槽等の器具及び薪炭に用ひアイヌ女子を鯨皮を水に浸せば藍色の汁を出づ樹に此汁を用ゆれば黑色極めて光澤あり車輪、椀、盆、獨樂、器具用及び建築に用ひ炭輪と云ふ

▲にれ　薪炭用に供す內皮の纖維を用ひ及び船艇洲に用ひ又弓に作る

▲くは　琴、箱類、糊飾に用ひ及ばず三絃等の樂器、馬鞍、茶盆、提雪車

▲おにぐるみ　房具、鏡臺、木履、文箱類等に用ひ樹皮は染料に供し皮葉は驅蟲劑に使用し仁は食用とし又油を製す

▲しらかんば　樹皮、獨樂、櫛、戶車、煙草入に作り皮は短冊となし箱を縫ひ又諸物を包裹し附木の代用とし雨傘に用ひ樹皮は能く燃ゆ炭は書に曰く松此材に供し屋營繕中尙洋用に用す薪材に用ひ

用に適せざるも其質柔靭なるを以て車匠室具匠及び旋盤匠には最も要用の原料にして薪材としては山毛欅と同一の價値を有し炭は鍛房の需要あり柔靭なる小枝は籌に作る此皮は北國にては諸器具靴、索、箱、唾壺を作り又屋背を被ひて濕氣を防ぎ北米に於ては帳幕簾其他の器具及び輕便なる獨木舟を作り樹皮は抜爾撒謨質を含むを以て乾餾して其油を得「ロシヤ」革製造用に供す此皮又澱粉を含むを以て舂き碎きて之を得、樹液は嫩葉を生ずる以前糖分を含むを以て之を採りて有效なる壞血病防藥となし又之を收めて一種の酸を作る處ありと

▲はんのき 器具、船具、椅子、木履、櫛、太鼓の胴、兒童の玩具等に使用し、薪炭材に供し、其小木は火藥用炭に用ひ又鍛冶炭となす皮及び實は染料に供す、又農家之を畦畔に植栽し土崩を杆止し、又枝葉を剪除して秋穫の際稻干に使用す

▲やまはんのき 挽物細工、箱類、茶托等を製するに用ひ又茶箱となし、薪用にも供す、皮實は染料とし、小木は火藥炭用となすにはハンノキに優る、北米に於ては煉瓦を最終に燒く際に、此材を用ゆと云ふ

▲あさだ 雪車、魚叉竿、船具等を作り、又薪炭材として可なり、米

▲かしは 主に薪炭に用ひ、床板、定木、鐵道枕木に用ゆ、樹皮は漁網を染むる必要品にして又鞣用に供す葉は舊俗端午に餅を包む、實は豚に飼ひ晒製にして澱粉を製す、歐洲にては此材を製艦用に供すと云ふ

國にては此の屬の木材は、木槌及び車輪に用ゆと云ふ

▲おほなら 船艦材、酒樽材、臼、椅子等の器具、鐵道枕木等に用ひ、又薪炭、良材にして香蕈を製る原料に可なり、皮は煎して染料となし枝葉の灰は染工の用ゆる所なり、實は晒製して食用とすべし、此木の老木は煙なく燃て爆せず故に之を上等煖爐に用ひ、熔鑛爐には壯木の灰を用ひて益ありと稱す

▲みづなら 建築材、工業用、薪炭、香蕈材料に用ひ

▲しばくり 其材水濕に堪ゆ、保存期極めて永きを以て、家屋の土臺、井桁、湯殿板、流し板、溝板、船材、樽材、鐵道枕木に賞用し、屋根板、鏡臺、船具、本箱、書棚、轆轤細工、椅子、椀類、食卓、帽子掛等に作り、其木材は鐵鍛冶に用ひ又樹皮は單寧を含むこと多きを以て鞣皮用染料等に供す子實は滋養分を含むこと多く之を食用に供し、又料理に用ゐて賞用せらる

▲どろ 小船の底材、丸木船、牙枝、箱類に作り、又燐寸軸木として賞用す、歐洲に於ては建築用材の外、行李、杓子、木盤各種の轆轤細工に用ゆと云ふ、近來又製紙の原料に用ゆ

▲はこやなぎ ドロノキと同じ舊時扇箱、牙枝、白箸を作るには主に此材を用ひしと云ふ、彫刻、玩具に用ひ、火藥用木灰を製し、燐寸軸木としてはドロノキに優る

▲いちゐ 建築材、床柱、板、机案、箱、桶、火鉢、弓、鉛筆材となすべく、アイヌ人は必ず獵弓に之を賞用す、果肉は甘味にして食ふべく、又庭園樹として最も賞玩せらる

▲ごゑふまつ 本道に於ては之を建築材にのみ用ゆ、燐寸軸木に用ゆべし

▲ゑぞまつ 建築材に賞用し、船材、机、橋、器具類に作り、本道有用樹種の主なるものなり、小木の枝葉は元日の門松及び緣門の裝飾に用ゆ

▲とどまつ 建築用材の主木にして船材、柾、器具、家屋の土臺に用ひ、幼樹の枝葉は之を門松及び他の裝飾に使用す

▲きぬやなぎ 材は張板、粗板等に用ゐ、又器具材として匣箱の類を作りて頗る雅美なり

◎北海道産繊維植物（續面）

▲しなのき　内皮の繊維は柔軟にして能く水濕に耐ゆるを以て布に織り又諸物を縛束するに用ゆ蕉衣の經線、繩、紙皮、靈、脚胖、漉酒袋、蚊帳、馬具及び製紙の原料となす又シナ繩、馬具及び細引を造る織物はマダヌノと稱す

▲おひやう　内皮の繊維は「アイヌ」之を「アッシ」と名け所謂「アッシ」織の原料なり釧路のアッシ織最も名あり強靱にして雨露に堪ゆアイヌ人の衣料たり

▲ぶどう　水濕に堪ゆるにより「アイヌ」は此皮を剝ぎ繩草鞋を造りて賞用す又蔓を渡船場の網及び釣瓶繩とす

▲はぎ　此繊維を以て繩及び網を造る

▲てくわ　此皮を以て藤橋を造り筏を編みて強き蛇籠を造る又其繊維は頗る強靱なるが故に晒して麻の如くし繩に造り脚胖に用ゆ

▲いらくさ　此の繊維を以て疊糸及び布を製す「アイヌ」は此糸を弓絃とす「カラフト、アイヌ」は此繊維を以て恰も北海道「アイヌ」が「アッシ」を織るが如く一種の布を織りて衣料に供す

第二十一號函

北海道産有毒植物

▲1おほぶし　土人は根汁を製して射罔となす、其毒性甚だ劇烈にして巨熊を一箭の下に斃すを見て知る可し

▲2ねぞとりかぶと　札幌附近に多く生ずるものにして全ほぶしに比して其毒甚しからざれども懼るべきものなり

▲3るねねふしようま　秋月、紫黑色若しくは赤色の漿果を結ぶ、實並に根に毒あり食すべからず

▲4はひきんぽうげ　莖葉共に毒あり

▲5たがらし　雑麥類と混生する雑草にして、麥の收穫に際し之れに混じ種子にサポニンを含有し大害を與ふることあり

▲6むぎなでしこ　造り筏を編みて強き蛇籠を造る又其繊維は頗る強靱なるが故に晒して麻の如くし繩に造り脚胖に用ゆ

▲7つたうるし　莖を斷てば白乳色出づ、此液に毒あり、食すれば舌唇腐爛し死に至ることあり、懼るべきものなり

▲8どくうつぎ　赤色の果實を結ぶ誤つて食すれば死す、木葉共に毒あり

▲9どくぜり　一見産に類するを以て誤り食し中毒するもの多し、溪流、沼澤の附近に生じ家畜之を食して斃ることありと云ふ、其毒素はシクゝキシンと稱するものにして痙攣を起さするもの根は肥大にして筍の如し

▲10きんぎんぼく　七、八月頃赤實を結ぶ大毒あり俗に「なゝころび」と稱するは一粒を食すれば七歩を出でずして斃るとの意なり

▲11はなひりのき　枝葉共に味辛辣之を陰干にし粉末とせるものを嗅かば忽ち嚏す故に名あり、之を厠中に入るれば虫皆死すと云ふ

▲12いぬほゝづき　實に毒あり

▲13まるばのぼろし　赤色美麗なる漿果を結ぶ誤つて食すれば忽にして死す注意すべし往々家禽の之を食して死することあり

▲14やまごぼう　生根はフィトラセトキシンと稱する毒素あり利尿劑又は水腫病を治するに用ゆ

▲15こせうのき 方言からすしきみ 赤色の實味辛辣、咽喉を刺激し煩悶せしむ、甚だしきは遂に斃るゝことあり

第二十二號函

▲てん 日光産、本洲に住め共本道に住せず優良なる毛皮を産す
▲ゐぞてん 石狩國簾舞、本道に棲む、本洲の「てん」より も遙に優良なる毛皮を産す
▲もものが 盤城産
▲りす二頭 札幌
▲いたち二頭 八雲
●こうづる 韓國産、本道にも稀に來る
▲くろさぎ 本洲に棲めども本道になし
●あかはら及其巣
●のすり
●わしゝみづく 樺太産、樺太及本州に産するも其間に介在する本道に棲まず能く本道に産するしまふくろに似たるも足に羽毛を被る

第二十三號函

獸類の骨格

▲くま
▲らつこ
▲かはおろ
▲おつとせい
▲いるか
▲くまの頭二個

階上第一號函

標本に赤紙を附したるは保護鳥なり

◉目と標本番號鳴禽類は213より219、まで及び222より254同274より307まで、猛禽類は210 211 219 220及び255より270まで、啄木鳥類は308杜鵑類は271より273まで

◉樹上にとまる者

▲215くまたか♀ 二四、二一、石狩國栗山、尾と翼は矢羽に用ゐ野鼠兎を捕へ食ふ、故に益鳥なり
▲216ちごはやぶさ♀♂ 一四、九、札幌
●217ぬゑじない♀♂ 又とらつぐみ 二三、八、札幌
▲218くろつぐみ♀ 一五、一一、札幌
●219まみじろ♀♂ 一五、一〇、札幌
●220あかはら♀♂ 三八、一一、札幌
●221まみちやじない♀♂ 二八、一〇、札幌、以上つぐみ類は夏期本道に棲み産卵す樹實及ひ昆虫を食とす
▲222つぐみ♀♂ 又ちやうま 三八、二、札幌
●223はちじやうつぐみ 一三、四、札幌以上二種のつぐみは冬季のみ本道に來る
●224とび♀ 一四、九、札幌、海濱に多く尾羽は羽箒用として用ゐる

▲225 しろはやぶさ♀ 二七、二、後志國小樽、本道の稀鳥なり

▲226 おじろわし♀ 一四、二、札幌、海濱河川の沿岸に棲み尾羽は矢羽に使用せられ魚を食とす

●227 ひよどり♀♂ 一五、一〇、札幌四時林中に棲み昆虫果實を食ふ

●228 こるり♀♂ 一六、三、札幌、夏季のみ本道に來り林中に棲み昆虫を食ふ

●229 めじろ♀ 二七、一一、札幌

●230 じやうびたき♀♂ 三一、二、札幌本道にては稀なり

●321 こつばめ♂ 又むぎまき、一三一、〇札幌

●232 いろひよどり♀ 一六、六、後志國鏡函

●233 きびたき♂♀ 二七、五、札幌、夏期のみ本道に來り産卵し昆虫を食とす

●234 さめびたき 二三、八、札幌

●235 のびたき♀♂ 及雛一七、六、札幌平原に棲み産卵し昆虫を食す

●236 おほるり♀♂ 雛二三、八、札幌

●237 せんだいむしくひ♂ 二七、七、札幌

●238 ゐぞむしくひ♂ 四二、九、札幌

●239 めぼろ 一八、九、札幌、森林に棲み昆虫を食ふ

▲240 おほよしきり 又よしはらずめ一八、六、札幌、水邊低他等に棲み産卵し昆虫を食ふ

●241 ゐぞせんにう♂ 一七、六、札幌、夏期本道に來り原野に棲み其聲杜鵑に類し昆虫を食す本道に特別なるものなり

●242 うぐひす♂ 一四、六、後志國高島

●243 きまはり♂ 又ごじうがら、一三、五、札幌、四時林中に棲み樹皮の間に棲む昆虫を捕へ食ふ

●244 みゝざゝい♀♂ 一三、一二、札幌

●245 しまゐながふ♀♂ 俗に綿帽子と云ふ、二三、九、札幌、本道に特別なる鳥にして冬期のみ來り昆虫を食ふ

●246 しじうから♀♂ 一四、五、札幌

●247 ひがら♂ 一六、三、札幌

●248 きくいただき♂♀ 三三、一〇、札幌、以上三種は本道普通の鳥にて昆虫を食ふ益鳥なり

●249 もず♀ 一九、九、石狩國琴似

●250 あかもず♀ 一三、一〇、札幌、以上二種は夏期のみ本道にあり昆虫を食ふ

●251 むくどり♀♂ 雛一五、七、札幌

●252 しまむく♀♂ 又こむくとも云ふ一三、五、夏期に來り立木に群集し昆虫を食ひ又立木の穴に産卵す

▲353 わたりがらす♂ 二〇、一〇、北見國禮文

▲254 はしぶとがらす 二四、二、札幌

▲256 はしぼろがらす 二九、三、札幌

▲257 はいいろからす 一四、一〇、札幌

▲258 こくまるがらす 二一、一〇、石狩國山鼻

▲258 ほしがらす♂ 三二、一一、石狩國花畔

▲259 みやまかけす 一三、九、札幌、本道の特種にして冬は林中にあり夏は畑地に多し

▲260 みさご 二三、一〇、札幌、水邊に棲み魚を捕りて食ふ

●261 あをばづく♀三〇、八、札幌

●262 ふくろ♀四二、九、札幌

●263 おほこのはづく♀四二、八、札幌

●264 しまふくろ♂一四、一二、みみづくに似たるも趾端まで羽毛を被るを以て異なりとす魚類及野鼠を食とし北海道特有のものなり

●265 けあしのすり♀二九、三、札幌、田野に棲み野鼠、蛙を食とす本道の稀鳥なり

▲266 おほわし♀一七、一、石狩國千歳、海濱に多し冬期溪流に集まり鮭魚を食とす、尾羽は矢羽に使用せらる

▲267 ちうひ♀三五、一〇、札幌

▲268 はいいろちうい♂三五、一〇、札幌、沼澤の邊に棲み水禽を捕食す本道の稀鳥なり

●269 とらふづく♀及雛四〇、八、札幌

▲270 こちやうげんぼう♀二九、一二、札幌

▲271 をじろわし♀三五、一二、後志國小樽内

▲272 おほたか♀一七、一〇、

▲273 同♂三一、八、札幌、鳥類を捕ふ飼育して狩獵に使用せらる

●274 のすり♂一三、一、札幌

▲275 はやぶさ♀二九、三、石狩國夕張

●276 つつどり♀♂及雛二〇、六、

●277 かつこう♂及雛二一、七、札幌

▲278 じういち♀二〇、七、以上三種は自身巣を營まず他鳥の巣に産卵し之を孵育せしむ

▲279 はりをあまつばめ一六、六、札幌、夏期本道に來り空中を飛翔し昆虫を捕へ食となす

▲280 よたか♀一六、六、札幌

下に陳列せる者

▲281 しめ♀一三、四、札幌

▲282 いかる♂一六、六、札幌

▲283 はぎまして♂一三、七、札幌

▲284 おほまして♂一七、三、札幌

▲285 いすか♀♂三〇、一、札幌

▲286 ぎんざんまして♀一八、一二、札幌

▲287 べにまして♀又さるまして一三、五、札幌

▲288 うろ♂一九、三、札幌

▲289 かはらひは♀♂一四、五、札幌

▲290 べにひは♀♂四、又ぬかひは一二、札幌

▲291 まひは♀♂一四、四、札幌

▲292 にうないすゞめ♀♂及雛一五、五、札幌

▲293 すゞめ♀及雛一五、四、札幌

▲294 ぶちすゞめ一九、五、札幌

▲295 あをじ♂一五、九、札幌

▲296 くろじ♂二七、一〇、札幌

▲297 しまあをじ♂二〇、五、札幌

▲298 おほじゆりん♂三五、五、札幌

▲299 かしらだか♂三五、四、札幌

▲300 ほほあか♂一九、五、札幌

▲301 しろあたまほほじろ♂

一、札幌

▲302 ほほじろ♂及雛一五、六、

▲303 あとり♂ 一七、四、札幌、以上枚挙したる鳴禽類は春季中は昆虫と草実を混食すれども穀物成熟するに至れば之を食ふ故に其嘴強硬なり、飢へたるときは往々木の葉を食ふ

●304 ひばり♀ 一六、四、札幌

●305 たひばり♀ 一四、九、札幌

●306 せぐろせきれい♂ 一四、五、札幌

●307 いはまきつばめ 一三、七、根室國根室

▲308 かはてう♀ 又やませみ、一三、一〇、石狩國千歳

▲309 みやましやうびん♂ 一七、五札幌

▲310 かはせみ♂ 一四、六、札幌

●311 ありすい♀ 三九、四、札幌

●312 ないりつばめ 一三、七、根室國根室

◎鳥類の巣及卵

▲からす 一八、六、札幌

▲同巣及雛同

●しまゑなが 四二、渡島國函館

●うぐいす 四〇、九、石狩國空知

▲すゞめ 一八、七、札幌

●しまむくどり 一八同

●くろつぐみ 二二、七、同

●おほよしきり 一八、六、同

●のびたき 二〇、五、同

●こよしきり 二八、八、同

▲ほほあか 二二、七、同

●うづら 一八、八、同

●あかはら 一八、七、同

●すなむぐり 一八、六、同

▲あをじ 一八、七、同

●もづ 三八、六、同

▲かはらひは 二四、四、同

▲ほほじろ 一八、六、同

●びんずい 二二、七、同

●きせきれい 一八、六、同

●きじばと 一八、六、同

▲かはせみ卵 三八、六、同

●ありすい卵 三八、六、同

●はりをあまつばめ卵 三八、七、同

▲おほたか卵 三九、八、同

▲ぺにましこ卵 三五、六、同

●うみねこ卵 三八、五、函館

▲にうないすゞめ 三八、七、同

●とらふづく 三九、五、同

●あかげら 四〇、八、同

階上第三號函

▲おほたか及其巣

▲たぬき 雌雄又「むじな」と云ふ、石狩國月寒本州産と同種なり間々優良なる毛皮を産す

▲くまたか雪中にゑちごうさ

ぎを狙ふ

▲かめりをん　主に「アフリカ」に産し、長大なる舌を以て昆虫を捕ふること妙なり、生活中はよく體色を變ず

▲わらん　現今生活する「とかげ」中最大なるものなりフイリツピン等に産し、見世物として本邦に持來らる

▲ねむずる　擬猴類なり、ベンガル、シヤム、ボルネオ、スマトラ、ジヤバ等にて家族生活をなす夜獸なり、本邦にはよく見世物として持來らる

▲たいわんをながざる　雌雄臺灣産、印度、スマトラ、ジヤバ、ボルネオ及ひ其附近の島嶼にも棲む、日本ざるの如くは怜悧ならざるが如し

▲かささぎ　臺灣産、本邦産と同種なり

▲やまむすめ　臺灣産、かささぎに近し

▲せんざんこう　臺灣産、アツヤとアフリカのみに産す、晝は穴居し、夜出て徘徊す好んで「ありー」白蟻を食す、ものに恐るゝ時は丸く卷かる

四　人類學標本類

階上第三號函

アイヌ土俗品

◎家屋其他建物

▲(1)家屋　アイヌ名チセ、アイヌの家屋は土臺を据ゑず、上端に股ある丸木を以て桁を支へ、下端は土中に支ふ桁の上に木を組み、茅藁、葦を以て屋根を周囲を包む及四隅を釘を用ひず、入口及二三の窓を設け、其後方にある窓をカムイブヤラ(神窓)と稱し、神事に關する物を出入す

▲一號家屋雛形　日高國沙流郡

▲二號家屋組立雛形　石狩國石狩郡

▲三號家屋組立雛形　樺太

▲(2)倉庫　アイヌ名プー、小形なり甚だ床を高くし柱上板を横たへ、以て鼠の上るを防ぐ、食料等を貯藏するの用に供す

▲四號　日高國沙流郡

▲五號　樺太

▲(3)熊欄　アイヌ又名ペウレツプチセ　アイヌは熊の雜兒を捕へ來りて之を飼育し、冬期に至り之を殺して熊祭を行ふ、茲に其熊欄の一例を示す

▲六號熊欄雛形　日高國沙流郡

▲(4)島籠　アイヌ名テウレツプチセ、アイヌは又梟、鷹等を飼育することあり、茲に其鳥籠の一例を示す

▲七號　膽振國千歳郡

◎衣服及附屬品

▲I衣服　アイヌの衣服はオヒヨウ樹の皮又はアカタモ樹の皮、アイラクサの繊維を以て織りたる布、又は若くは鳥獸の皮を以て之を製す、又は交易して得たる日本及支那の古着を用ふ、今日は大抵木綿物を買ふて之を造る

▲(1)アツシ衣　アイヌ名アツシ、オヒヨウ樹又はアカタモ樹の皮を剝き、數日間溫泉に浸し乾燥して纖維を細く裂き、之を以て布を織り衣服を製す(工藝用品機織具參照)

▲一號　アイヌ名アツシケアツシ　日高國沙流郡

▲二號　同　樺太

▲三號 同樺太、裝飾用の婦人の帶を附す

▲四號 アイヌ名ニカップアッシ、北海道、アカタモ樹の纖維を以て造りしもの

▲(2)木綿縫取衣 買入たる木綿織物にて製し、之に固有の縫取を施す

▲五號 アイヌ名カアパラシ 日高國沙流郡厚別村

▲六號 アイヌ名カバシリ 膽振國千歲郡

▲(3)鳥皮衣 海鳥の皮を剝き縫合せて製す

▲七號 アイヌ名チカプウル、千島國色丹島、エトピリカと稱する海鳥の皮を以て製す

▲八號 同

▲II帶 オヒヨウ、イラクサ等の纖維を以て之を製す（工藝用品機織具參照）又獸皮其他の物を以て之に充つ

▲(1)アッシ帶 原料總てアッシ衣に同じ

▲九號 アイヌ名シエンテプ 石狩國

▲十號 アイヌ名ヘチリンクト、樺太 日高國沙流郡

▲十一號 同上

▲十二號 樺太

▲(2)婦人帶 樺太アイヌ婦人の用ひたるものにて、金屬製の環等を附し裝飾とす

▲十三號 アイヌ名シエンテプ

▲十四號 アイヌ名タントクト、樺太

▲III被り物 (1)禮帽 アイヌ名シヤパウンペ、儀式の節に用ふる禮帽なり

▲十五號 石狩國

▲十六號 十七號及び十八號（帽子）アイヌ名コンチ、樺太

▲十九號（鉢卷）アイヌ名トタンプシ、日高國沙流郡厚別村

▲二十號（鉢卷）アイヌ名マタンプシ、石狩國石狩郡

▲(3)笠、二十一號 樺太、水皮を以て製せるもの

▲(4)手袋、二十二號 アイヌ名ナクンペ、膽振國千歲郡

▲(5)前垂 ▲二十三號 アイヌ名アシポンハケ、日高國沙流郡

▲(6)脚胖 アッシ木綿、魚皮等を以て製す

▲二十四號 膽振國千歲

▲二十五號 アイヌ名ホシ 石狩國石狩郡

▲二十六號 アイヌ名ケツプカツプホシ、樺太

▲(7)靴及靴足袋 海鱸皮、鮭皮、葡萄蔓等を以て製す

▲二十七號（海鱸皮）アイヌ名トンドケリ、千島國色丹島

▲二十八號（鮭皮及海鱸皮）アイヌ名ケリ 樺太

▲二十九號（葡萄蔓）アイヌ名シツケリ、石狩國石狩郡

▲(2)靴足袋 ▲三十號 アイヌ名ケリオツプ、石狩國石狩郡

▲(8)カンジキ 冬期雪中に足を踏み込まざる爲め穿くものなり

▲三十一號 樺太アイヌ名テシマ

▲(9)裝飾品(イ)太刀 アイヌ名エムシ 儀式の際男子の帶ぶるものなり、宗教的用品は熊祭の部に陳列す

▲(ロ)耳輪 アイヌ名ニンカリ又はニンカニ、金屬製の輪にて耳朶に穴を穿ち之を嵌めて裝飾とす、又紐を結ひて代用することあり

▲三十二號 アイヌ名ニンニンカリ、チウトンウ 日高國沙流郡

▲(3)首飾 アイヌ名リクトンベ、玉錢等を紐に擊き以て首に掛くること又紐のみを用ふることあり

▲三十三號 日高國沙流郡

▲三十四號(小兒用) ▲三十五號 北見國禮文郡香深村

▲(4)腕輪 アイヌ名テクンカヲ、概ね金屬製の輪にして腕に嵌め裝飾とす

▲三十六號 日高國沙流郡

◎日用器具及樂器

▲(1)木皮鍋及自在鍵 樺樹の皮を以て製し鍋となし物を煮るに用ふ、自在鍵は鍋を吊縋するに用ふ

▲一號、二號(木皮鍋) アイヌ名チクニカップニハトシュ 膽振千歲郡

▲三號(木皮鍋) アイヌ名チクニカップニハトシュ、樺太

▲四號(自在鍵) 膽振國千歲郡アイヌ名シュフチ

▲(2)椀 木製にて食物を盛るに用ふ

▲五號 石狩國上川郡アイヌ名イタンギ

▲六號 樺太アイヌ名イタンギ

▲七號(貝殼形) 釧路國厚岸町アイヌ名ニセウ

▲(3)盆鉢及俎 大小形狀種々あり、普通木盆をニマと云ひ、木皮製のものをチクニカップニマと云ふ、其鉢形をなすものをパチマと云ふ者あるは和語の轉訛したるなり、チポンニマと稱するものは魚の子を粉碎するに用ふるものなり

▲八號九號(木盆) 日高國沙流郡アイヌ名ニマ

▲十號 釧路國厚岸郡厚岸町

▲十一號、十二號 膽振、千歲日高、沙流

▲十三號(木皮盆) 膽振國千歲郡アイヌ名チクニカップニマ

▲十四號(同) 石狩國石狩郡アイヌ名フニス

▲十五號(片口形) 日高國沙流郡

▲十六號(同) 同

▲十七號(同) 同

▲十八號(同) アイヌ名エト

▲十九號(俎) アイヌ名チポンニマ 釧路國厚岸郡厚岸村

▲二十號(摺) アイヌ名チポンニナップ、釧路國白糖郡白糖村

▲二十一號(木盆) 日高國沙流郡アイヌ名チチケ

▲二十二號、二十三號(木盆) アイヌ名チチケ 日高國檜似郡

▲二十四號(草盆) 石狩國石狩郡アイヌ名チチケ、チュ

▲二十五號、二十六號(木鉢)

アイヌ名ニパッチ
日高國沙流郡

▲二十七號(俎)アイヌ名シュケーニマ、同上

▲二十八號(切り臺)アイヌ名イタタニ、贈振國千歳郡

▲(4)杓子類木製若くは木皮製にして飲食物を掬ふに用ふ

▲二十九號アイヌ名シュトペラ石狩國石狩郡

▲三十九號(杓子)アイヌ名カシュップ、同上

▲三十一號(飯杓子)アイヌ名シタペラ、千島

▲三十二號(杓子)アイヌ名カシュップ、日高國沙流郡

▲三十三號(同)石狩國石狩郡

▲三十四號、三十五號(柄杓)同、千島國色丹島

▲三十六號(木皮製柄杓)

▲三十七號(酒柄杓)贈振千歳

▲三十八號(同)日高沙流

▲(5)喰匙及箸喰匙は木を以て製す、箸は木又は骨にて製す、其使用は蓋し和人の風を見習ひたるものならん

▲三十九號より四十六號アイヌ名ホウケンペラ日高國沙流郡

▲四十七號石狩國札幌郡雁木

▲四十八號(骨製箸)アイヌ名カムイポチハシ、日高國沙流郡

▲(6)髭篦木製にて酒を飲むとき髭を上ぐるに用ゆるものなり、之に種々の彫刻を施す

▲四十九號アイヌ名イクパシュ石狩國石狩郡

▲五十號同、石狩國上川郡

▲五十一號同、贈振國千歳郡

▲五十二號同、日高國

▲(7)臼及杵雛形臼、杵共に木製にして粟、稗等の實を搗くに用ふ

▲五十一號五十二號(臼)アイヌ名ニショウ、石狩國石狩郡

▲五十三號、五十四號(杵)アイヌ名ユタニ

▲(8)箕及箒木製の箕及蒲鞴臺製の箒なり

▲五十五號(箕)アイヌ名ムイ石狩國石狩郡

▲五十六號(箕雛形)同

▲五十七號(箒)アイヌ名ソヌイプ

▲(9)枕

▲五十八號アイヌ名チニヌイペ

▲(10)背負繩シナノキの皮又は海驢皮を以て造り或は麻繩を用ふ、其用法は肩に掛けずして額に掛るなり

▲五十九號(シナ皮製)アイヌ名チレップナチンケップ石狩國石狩郡

▲六十號(同)贈振國千歳郡

▲六十一號(海鱸皮製)アイヌ名ヌマラシタラ、千島國色丹島

▲六十二號(同)樺太

▲六十三號(糸繩)贈振國千歳郡

▲六十四號(同)同

▲(11)小兒釣床及小兒負具　釣床は小兒を之に寢かし置き泣くときは搖り動かすなり、負具は捧と繩とにて繩を額にかけて負ふなり

▲六十五號(釣床)　アイヌ名シンタ、日高國沙流郡

▲六十六號(負本)　アイヌ名アイチウンベ　石狩國石狩郡

▲六十七號(負繩)　アイヌ名エオマチタルベ、同

▲(12)發火用具及灰搔　アイヌは初め木を揉みて火を取りしが、其後和人に習ひて火打鐵を用ひ、今はマッチを使用す

▲六十八號(火揉棒)　アイヌ名ニイカラキシヤ、石狩國石狩郡、木棒を他の木に烈しく揉みて發火せしむること日本の古法に同し

▲六十九號(火打道具)　アイヌ名パシチツピヒウチ、石狩國石狩郡、火打鐵及ホクチ入にて火打鐵は和製なり

▲七十號(ホクチ入)　アイヌ名カアラパス、膽振國千歲郡

▲七十一號　アイヌ名ピヤウチオツプ　石狩國上川郡

▲七十二號(同)　石狩國石狩郡

▲七十三號(同)　天鹽國天鹽郡

▲七十四號(灰搔)　アイヌ名アベサンカラキライ、石狩國石狩郡

▲(13)燈火用具　樺皮を以て和人の燭燭を用ふる場合に代用す

▲七十五號(木皮蠟燭)　アイヌ名チノエダ　膽振國千歲郡

▲七十六號(同)　同

▲七十七號(臺木)　アイヌ名シヲユニ、膽振國千歲郡、此臺木に樺皮を挿み用ふ即ち燭臺の用をなすものなり

▲(14)烟草用具　烟草入は木製にて彫刻を施せるもの多し烟管は木製なり、又和製のものを用ひ、昔時は石製(シユマキセル)及支那製のものをも用ひたり

▲七十八號(烟草入)　アイヌ名タンパコチツプ、日高國沙流

▲七十九號(同)　樺太

▲八十號(木製烟管)　アイヌ名セレンポ　樺太

▲八十一號(同)　樺太

▲八十二號(同)　釧路國厚岸郡

▲(15)物干竿、八十三號　アイヌ名ヤルベシヤンケブ　日高國沙流郡

▲(16)穗摘具　粟稗等の穗を摘むに用ふるものにて農具の一種也

▲八十四號　アイヌ名エチヤヒバ　石狩國石狩郡

▲(17)容器離種　前に陳列せる盆鉢等の外に屬する種々の容器なり

▲八十五號(草製)　アイヌ名キナパツパ、日高國沙流郡、鹽入れに使用したものなり

▲八十六號(樺皮製)　樺太、小果實其他の物を入るゝに用ふ

▲八十七號(三德)　千島擇捉

▲八十八號(編製物入)　千島アイヌ名カロンプ、日

▲(18)胴亂　▲八十九號

高國新冠郡

▲九十號 アイヌ名ナカロンブ 膽振國千歳郡

▲九十一號 釧路國厚岸郡

▲(19)サラチップ シナノキの皮又は草を以て編みたるものにして、提亂の用をなし、若くは叺の用をなす

▲九十二號

▲九十三號、九十四號(草製)

▲(20)蓆及簾 蓆はガマ又はスゲ等を以て織る、其製法は工藝品及工藝器具の部に明かなり用途は敷物を主とし、又物を包むに用ふ、簾は萩又は蘆にて作る

▲九十五號 アイヌ名イチマチタラペ、膽振國千歳郡、蓆の一端を折返して袋となし旅行中物を入れて携帶す

▲九十六號 アイヌ名キナ、日高國厚別、物を包み風呂敷の用とりす

▲九十七號 アイヌ名キナ、日高國沙流敷物其他に用ふ

▲九十八號 同、樺太

▲九十九號(簾) アイヌ名シニッテン、膽振國千歳郡

▲(21)小刀 日常物を切るに用ひ、又彫刻に用ふ、其鞘は彫刻をなし間々精巧のものなり

▲百號、百一號及百二號 アイヌ名マキリ、日高沙流

▲百三號、百四號 同、石狩國石狩

▲百五號 同、石狩國上川

▲百六號、百七號 同樺太

▲百八號(小刀鞘) アイヌ名マキリシリカ、日高國沙流

▲百九號(同) 石狩國石狩郡

▲百十號(橇) アイヌ名ケレ、樺太、雪中の運搬具にして犬數頭を以て輓かしむ

▲(22)樂器 アイヌは多く樂器を使用せず琴及口琵琶あるも、琴は樺太、千島本島アイヌの一部に行はるゝのみにして全部に行はれず

▲百十號、百十一號(三絃琴) アイヌ名ハラリヤー、千島國色丹島樺太及本島の一部には五絃琴あり

▲百十二號(琵琶) アイヌ名ムックリ、竹にて作り、絲を附けたる小樂器にして絲を口に含み、指にて彈き鳴らすなり

◎漁獵具及武具

▲(1)たしろ アイヌも亦タシロと云ふ狩獵等の節多く携帶す

▲一號より三號 日高國沙流郡

▲四號、五號 石狩國石狩郡

▲(2)刑杖 堅き木を以て作る、之を以て罪人を打ち或は爭鬪に用ふ稀に交易して得たる鐵製のものあり

▲六號より九號 アイヌ名シュト 膽振國有珠郡

▲弓矢及矢筒 本道アイヌの弓はオンコの樹を以て造り、樺太アイヌの物は木質形狀此と同じから丸く削り上下を少しく細くす、樺太アイヌの物は狩獵及戰鬪の要具なり

▲十號より第十五號まで(弓) アイヌ名クー

▲十六號仕掛(弓) アイヌ名クアレク、日高沙流郡、努類にて之を仕掛置き獸の類を獵獲す

▲十七號、十八號 實地に仕掛けたる有樣を示すものにて熊等來りて繩に觸るれば矢自ら發して中るなり

▲十九號より二十五號（矢）アヌ名アイ、日高國沙流郡、矢は概ね竹にて造り羽二枚を付く、鏃は概れ竹にて之にぶし毒を塗る

▲六號より三十三號（矢筒）アヌ名イカヨ

▲三十四號、三十五號（矢筒雛形）アヌ名ポンイカエップ

▲(4)鈷類 形狀種々なり、漁獵に用ひ其一種は昔時戰鬪にも使用せられたり

▲三十六號より三十八號（鈷）アヌ名ラスマ、樺太、海豹其他海獸獵に用ゆ

▲三十九號（同）重に海獸獵に用ふ昔時戰鬪に用ひしことあり

▲四十號四十一號（鈷鉞）

▲四十二號より四十五號（鉞雛形）

▲四十六號（モリ）又ハナレ 海獸に打ち附くれば柄は自ら脫し鉞に附しある繩にし維きく樣裝置す

▲(5)捕鮭器 鉤にて鮭を抑へて引くときは鉤は鮭を鋏みたる儘下に垂れて楊り來るなり

▲四十七號より四十九號 アヌ名マアレ樺太

▲(6)釣具 魚を釣る針なり

▲五十號、五十一號

▲(7)捕鳥具 ▲五十二號（鷲釣）アヌ名カパチリアップ、冬期雪を覆ひたる穴小屋に潛み居り傍に餌を置き鷲來れば此器具を以て其足を引掛け捕ふるなり

▲五十二號（鳴掛け具）アヌ名カシンタ 贈振國千歲郡、此器を以て鳴等を引掛け捕ふ

▲(8)鹿呼笛 ▲五十三號 贈振國千歲郡、此笛を吹きて鹿の鳴き聲をなし、鹿を招き寄せて獵すなり

▲(9)船雛形 船は丸木船は一本の大木を刳りたる者、刳船は刳り作りたる者、刳船とあり 板を刳き間隙に苔を入れ船底とし緣に繩を以てとぢたるものなり

▲五十四號より五十七號（丸木船）

▲五十八號より七十號（刳船）

▲七十一號（木皮船）贈振國千歲郡

▲七十二號（アカ汲）石狩國石狩郡

▲七十三號（鈷）樺太

▲七十四號（鈷の柄）樺太

◎工藝具及工藝品

▲(1)首飾鑄形 首飾即ちトンベに用ゆる裝飾用品を作る鑄形にして木製なり

▲一號二號 アヌ名リクトンベシュ、日高國沙流郡

▲(2)絲卷 木製の絲卷にして、往々針入を造り附けたるものあり

▲三號 アヌ名ケムチップ石狩國上川郡

▲四號、五號 同上、日高國沙流郡

▲六號、七號 日高沙流郡

▲(3)蓆織具 キナ（蓆）を織るは和人の法に似たり、茲に其の實況を示す

▲八號（膽振千歳アイヌ名エデセカ）

▲(4)機織具（布を織る法は和人の法と大同小異なり、機臺なく一方を柱に繫ぎ、一方を腰板にて腰に支へて織る筬の如きは和名のまゝカサと呼ぶ、見れば其機は和人の法に倣ひて進歩したる者ならん）

▲九號（機織具一揃）樺太に於ける機織の要具即ち軸棒、梭、篦、筬並に綾を分ける具なり

▲十號厚手織具一組（アイヌ名カルンベ、日高國沙流郡、アッシを織る實況を示すものにして、其用具は腰板、軸棒、緯糸巻、篦、綾取具、綾を分ける具、筬等なり）

▲十一號（帶織具）（アイヌ名アッスクッチ、日高國沙流）

▲十二號（アイヌ名イシトモフ日高國沙流郡）

▲十三號（緯絲）（アイヌ名アフンカウニ）

▲十四號（篦）（アイヌ名アットシカルベ、石狩國石狩）

▲十五號（篦）（樺太）

▲十六號、十七號（帶織用篦）（アイヌ名クウベラ日高國沙流郡）

▲十七號、十八號）梭）（アイヌ名アフンカウニ、樺太糸を掛くるいとなり）

▲十九號（綾取具）（アイヌ名ヘカウニ、日高沙流、綾竹の用をなすものなり）

▲二十號　二十一號（筬）（カサと呼ぶ、日高國沙流郡）

▲二十二號（同）（樺太）

▲二十三號（帶織用筬）（膽振國勇拂郡鵡川）

▲二十四號（綾を分る物）

▲二十五號同（樺太）

▲二十六號（同帶織用）（日高國沙流郡）

▲二十七號（絲を掛るもの）（アヌ名カニチ膽振國千歳郡）

(5)織物、二十八號（アッシ）

▲二十九號（アッシ）

▲三十號（アッシ）

▲三十一號（アッシ）の切れ及其材料たる纖維（樺太）

▲(6)編物　▲三十二號（帽子）（アヌ名サバウンベ、千島）

▲三十三號（カバンの用をなすもの）（アイヌ名テンキ、中にあるは材料の草にして、サバウンベもこれにて製す）

▲(7)彫刻物、三十四號（手拭掛）（日高國日高郡）

▲三十五號（小刀の鞘、柄）（アヌ名マキリにして千島國擇捉嶋内保住人斯道の名工杉本目出平の作なり）

◎宗教的用品

▲(1)木幣（柳の木を削りかけにしたるなり、其形數種あり各其用ゐる所を異にす、按ずるにイナホは稻穗なるべきか日本にて正月十五日に削り花をかかぐるにておもひ合すべし）

▲一號より四號まで（木幣）（石狩國石狩）

▲五號より十一號まで（木幣）

▲(2)葬具、十二號(埋葬繩)アイヌ名ウトキアッと云ひ屍を薦にて包み其の上を此繩にて縛す、膳振千歳

▲十三號(墓標)北海道アイヌは墓を作らず之に反して樺太アイヌは墓標を立つ、石狩國上川郡

▲十四號(脊負繩)アイヌ名ボンタラ又葬具なり、膳振國千歳

樺太

階上第四號函 熊祭式場

熊祭はアイヌの大祭なり。住家の附近に式場を定め、木幣を垣の如く建て並べ、ヌレヤサンを作り、前に文蓆を敷き種々の寶物を飾り、稍離れて三尺許の杭を建つ。先づ熊を檻より出し、曳來りて、杭に繫ぎ置き、後繩を以て曳出し男子をして之を射らしめ、丸木を以て壓殺し、死体に夷服を着せ、裝飾を施し、酒食を供し、象夷所謂「カムイ飲」を始む。後、熊の皮を剝ぎ肉を食し、頭をヌレヤサンに掛けて祭る。其儀式は所によりて異同あり

階上第五號函

北海道樺太先史時代遺物

◎石器類

石器の製造使用に就て考ふるに其初は自然石の中使用に適するもの(天然石器)を拾ひ之を用ひ、次に石塊を破碎し其破片中より目的に適するもの(破成石器)を取りて之を用ひ、次に更に進みて石片の諸部を打欠き、稍々精巧なる器具(打製石器)を製し、或は研磨して器具(磨製石器)を製造し、或は簡易なる彫刻を施す研磨して穿ち穿を施すものの等あるに至る、而して此等の石器は鐵器其他便利なる器具を得るに至り漸次之が使用を廢したるものとす、石器の種類は石斧、石鏃、石槍、石劍、石匙、石鑿、石錐、石庖丁、石鋸、石鏃管、錘石、石冠、曲玉其他種々なり、其内此處に陳列するもの左の如し

▲(1)石斧(又雷斧)諸處に出づ、其用途は物を切るにあり、石質は粘板岩其他數種にして磨製最も多く、稀に打製せるものあり又打欠きて後其端を研磨せるものあり、刃は普通一端にあるも稀に兩端に付すものあり

▲一號より四十號後志國小樽區手宮

▲四十一號四十二號後志國岩内郡岩内町

▲四十三號石狩國雨龍郡雨龍村オモシロナ岡部方幾寄贈

▲四十四號膳振國室蘭郡室蘭貝塚

▲四十五號膳振國千歳郡烏柳舞村

▲四十六號(兩頭石斧)渡島國檜山郡江差町五勝手河野常吉委托

▲四十七號渡島國上磯郡木古内村河野常吉寄贈

▲四十八號千島國幌莚島ライシ墳墓ヤーコラ寄贈

▲四十九號五十號樺太ソロヨフカ

▲(2)石鎗 各處に出づ石質は黑曜石最も多く粘板岩等之に次ぐ皆打製なり其大小形狀一定せず小なるものは石鏃と殆と識別し難きに至る 鬪爭及漁獵の要具なり

▲五十號より六十三號 後志國小樽區手宮後志岩

▲六十四號より六十六號 國內郡岩內町

▲六十七號六十八號 後志國余市郡赤井川村役場囊三原治寄贈

▲六十九號七十號 天鹽國苫前郡天賣島河野常吉寄贈

▲七十一號より七十七號 樺太ソロキヨフカ

▲(8)石鏃 石器中最も多く各地に存在するものにして、其材料は黑曜石最も多く粘板岩硅岩等之に次ぐ、矢幹の一端に付け戰鬪及獵に用ひしものなり

▲七十八號より二百十五號 後志國小樽區手宮

▲二百十六號より二百三十四號 後志國岩內郡岩內町

▲(4)石劍及石棒 石棒又雷槌と云ふ其一端の尖銳なるものは石劍にして蓋し鬪爭等に使用せしものならん、其數は多からず 各地方に出づるも

▲二百三十五號 後志國小樽區手宮

▲二百三十六號より二百三十八號

▲(5)石匙(又皮剝具) 打製にして匙の形をなす諸處にあり 獸の皮を剝ぎ取る等に使用せしものならん、石質は粘板岩黑曜石等種々あり

▲二百三十九號より二百四十二號 後志國小樽區手宮

▲二百四十三號 渡島國上磯郡木古內村河野常吉寄贈

▲(6)石錐 諸處に出づ、打製にて細く尖れり物に穴を穿つに用ふ

▲二百四十四號より二百四十九號 後志國小樽區手宮

▲(7)箆形石器 裁縫に用ふる角箆の形にして頭部斜に刃を附す、物を切るに用ふ稀に存在す

▲二百五十號 後志國檜山郡江差町五勝手河野常吉委托

▲(8)石鋸 物を挽き切るに用ひしもの、稀にあり

▲二百五十一號 後志國小樽區手宮

▲(9)凹み石 大小種々あり、用途不明其內には物を搗き或は磨り碎くに用ひしものあり 其のもの少なからずと雖も

▲二百五十二號(破片) 樺太ソロイヨフカ

▲(10)錘石 石の中部を窪くし以て繩を掛くるに便す、法馬形のもの多し、大小種々あり、各地に出づ

▲二百五十三號 後志國小樽區手宮

▲二百五十四號 同上

▲二百五十五號 渡島國松前郡厚口村河野常吉寄贈

▲(11)石冠 大抵小形をなす其中部に窪みを同じたるものは錘石に似たり、蓋し此器は臺石と相竢つて物を壓し潰すに使用せしものならん

▲二百五十六號 後志國小樽區手宮

▲二百五十七號 同上五味幸寄贈

▲(12)石砥 大小あり、石質粘板岩、安山岩等にして精粗一ならず、物を研磨するに用ふ、各地にあり

▲二百五十八號 後志國小樽區手宮

▲二百五十九號 同上

▲二百六十號 膽振國室蘭郡室蘭町

▲二百六十一號 天鹽國苫前郡天賣島河野常吉寄贈

▲(13)石棍 圓壔形をなす、蓋し物を壓し延すに使用せしものならん、其存在稀なり

▲二百六十二號 後志國小樽手宮

▲(14)未製品及破片 各種石器の未だ完成せざるもの及破片にして名稱用途の詳かならざるものなり

▲二百六十三號より二百七十四號 小樽區外三ケ所

▲(15)圓石 天然の丸石にして他の遺物と共に存在す

▲二百七十五號より二百七十九號 後志國小樽區手宮

▲二百七十號 石狩國札幌郡白石村

▲(16)石器原料 石器の原料には黑曜石、粘板岩、硅岩、松香石、安山岩其他種々ありと雖も、最も多く用ひらるゝは黑曜石（十勝石とも云ふ）と粘板岩なり硅岩は其質堅緻なるも欠け難きによりて多く用ひず、此處に陳列せるは原料の一班なり

▲二百七十一號より三百六號 後志國小樽區手宮

◎骨角器 ◎骨器は北千島に多く、樺太少し其原料は鳥獸骨なるも就中鯨骨最も多し角器は鹿角にて作り其數多からず、骨角器の種類は大略石器に同じく斧、鏃、錯、鏃、骨刺、鉤針、櫛、及裝飾品の白、裝飾品等にして櫛如きは彫刻を施したるものあり

(1)骨斧 ひ北海道の北東部なり 同じたるは北千島、樺太及

▲一號 北見宗谷郡宗谷村河野常吉寄贈 同處より出たる他の一個は東京帝國大學人類學教室に在り

▲二號 千島國幌莚島ライシ墳墓、ヤーコフ寄贈

▲三號、四號 樺太ソロヤコフカ

(2)骨銘 戰鬪及漁獵具にして北千島には頗る精巧なるもの間々あり

▲五號より七號 千島國占守島長尾甲一寄贈

▲(3)肉刺 丸く尖りて處々に存在す 鋭利な

▲八號、九號 釧路國釧路町河野常吉寄贈

▲十號より十二號 千島國占守島長尾甲一寄贈

▲(4)骨管 一端箭管をなし、此處に他の鋭利なるものを挿入して使用せしものなり

▲十三號 千島國幌莚島、ライシ墳墓ヤーコフ寄贈、鐵の穗先と相嵌て海獸獵に用ゆる銛を成す、之と同じ品は釧路國釧路町よりも出だせり

▲十四號より十六號 千島國占守島長尾甲一寄贈

▲(5)骨櫛 鯨骨を以て製す、其形は縦に細長なり

▲十七號 千島國占守島ペットポ河野常吉寄贈（彫刻を施せり）

▲十八號 千島國幌莚島ライシ墳墓ヤーコフ寄贈

▲(6)雜 ▲十九號 釧路國釧路町河野常吉寄贈

▲二十號 千島國占守島ペットポ長尾甲一寄贈

▲二十二號より二十四號　樺太ソロキヨフカ

◎金屬器　◎北海道並に樺太に於ては先史時代の遺物として往々金屬器を出す、是れ其住民が交易により他人種より得たるものとす、若くは漂着せる船舶より得たるものとす、其種類は刀鍋、鎗、鉤其他種々なり、船釘を利用せるもの多きは殊に注目すべきことゝす

▲鍬形及刀劍　北一條西八丁目より發掘せしものにして、アイヌが寶物として珍藏せるものにして、病氣其他災厄あるとき之をかざりて祓ふ

▲內耳鐵鍋　札幌（耳に蔓を通して掛る）

階上第六號函

◎土器　◎具塚土器と稱するものにして皆素燒なり其形狀一ならず、甕形あり、壺形あり、急須形あり、鉢形あり、鳥抔鉢形あり、其他種々の形を有す、又紋を施したるものとあり、其紋は沈紋多く浮紋なし底は平底、丸底、糸底（茶碗の底の如く輪形をなせるもの）の三種あり平底最も多し色は原料によりて同じからざるも赤色を帶ぶるもの多く、鳶色黑色等之に次ぐ、極めて稀に色料を以て彩りたるものあり、右の外紡車敷種の土器あり、土偶も亦極めて稀にして出たることあるも今日は殆ど存せず、北海道本島の土器は比較的精巧のものあり、其使用は鐵鍋、陶器等便利なる利器なり、北千島及樺太のものは比較的粗製なり、物漸次之を捨てゝ石器の廢止よりも稍々後れて廢言へば止したるものの如し

▲(1)甕形及壺形　▲一號二號　後志國小樽區手宮、胴の紋樣奇なり、底にも亦紋あり、赤き色料を以て彩と蓋し珍品とすべし

▲三號より十號　後志國小樽區手宮七號は無紋、其他は皆、紋あり六號最も奇なり

▲十一號　石狩國雨龍郡深川村メム

▲十二號　十三號　歳郡漁村振國千

▲十四號　十五號　北見國禮文郡香深村

▲十六號　十七號　同上二個共上部を欠損す、厚手にして粗造なるものなり

▲十八號　千島國擇捉島紗那村向井義弘寄贈

▲十九號　渡島國上磯郡木古內村廣井勇寄贈、大形の壺にて明治二十六年木古內村道路開鑿の際掘出せるものなり

▲二十八號　同上廣井勇寄贈

▲(2)丸底壺形　▲二十一號より二十號　後志國小樽區手宮

▲(3)花瓶形　▲二十九號　後志國小樽區手宮　緣の兩側に耳を附し、穴を穿ち蔓にて釣るを得べし底は糸底なり蓋し珍品に屬す

▲(4)鉢形　▲三十號　後志國小樽區手宮

▲三十一號　渡島國上磯郡木古內村廣井勇寄贈

▲(5)高坏鉢　▲三十一號より三十四號　後志國小樽區手宮、三個となり、珍品とす

▲三十五號　膽振國室蘭町具塚、前號と同形なるも緣に紋なく平底なり

▲(6)丸底鉢形　▲三十六號より三十八號　後志國小樽區手宮、淺き鉢にて二個は紋あり

▲石英屬 ▲六方石又水晶 結晶形の石英にして玲瓏なれども混合物の爲めに往々種々の色を呈するものあり

▲普通石英 無結晶の石英にして岩石の成分をなし崩壞したるものは砂粒となる

▲玉髓 不純なる石英にして種々の色あり

▲瑪瑙 玉髓と普通石英と互に縞をなす

▲角石 種々の色あれども灰色を普通とす、石器時代の人民が石鏃に使用せしものなり

▲燧石 角石の一層不純なるものにて又石鏃の原料及燧石に使用せらる

▲蛋白石 半透明にして能く角石に似たれども光澤あり木の組織中蛋白質の沈澱したるものなり又細工に用ゆ

▲硅華 重に白色不透明の結晶なれど淡灰等の色を呈するものあり之を粉末として陶器の原料に供す

▲陶土 長石の崩壞して結晶形を失ひたるものにして陶器の原料に

▲長石屬 ▲正長石

一個は紋なし

▲(7)有孔壺形土器 ▲三十九號 北見國宗谷郡、胴に二個の穴を穿ち、底は糸底なり珍品とす

▲(8)急須形土器 ▲四十號 後志國小樽區手宮、紋樣其他精巧にして珍品に屬す

▲(9)鳥形土器 ▲四十一號 後志國小樽區手宮、鳥形をなせる双頭丸底の小土器にして珍品たり

▲(10)紡錘車 ▲四十二號 石狩國札幌區博物館構内、此物各地方に間々存在す

▲(11)土環 ▲四十三號 後志國小樽區手宮

▲(12)土器破片、緣及胴 ▲四十四號より五十八號 後志國小樽區手宮

▲五十九號より六十九號 天鹽國禮文郡香深村

▲七十號 千島國占守、北千島には厚手の粗造なるもの多し

▲七十一號 樺太ソロキョフカ、内耳土器の破片にして、内部に耳を附し、蔓を掛くるあり、此種の土器は樺太及北千島に多し、北海道本島には稀なり

▲七十二號より七十九號 樺太ソロキョフカ

▲(13)糸底 ▲八十號より九十六號 後志國小樽區手宮

▲八十七號八十八號 渡島國上磯郡木古内村廣井勇寄贈

▲(14)平底 ▲八十九號より九十九號 後志國小樽區手宮

▲九十號 石狩國札幌郡手稍村輕川

▲九十一號九十二號 北見國禮文郡香深村、此内一個は底に植物模樣あり

四 鑛物及岩石部門

階上第七號函 鑛物

◉非金屬鑛物

供す可し

▲粘土　陶土の不純なるものなり

▲斜長石　種類甚だ多し陶器の原料に供す可し

▲雲母屬　▲白雲母　銀白色の結晶なれど崩壊し、鱗狀の薄片となりて産するも混合物の爲に種々の變種を生ず

▲黑雲母　暗黑色にして又薄片となりて産するもの多し

▲蛭石　熱すれば水を放つて伸びる其狀恰も蟲の如し故に此名あり

▲石英長石及雲母　成分をなすが故に其分布甚だ廣し

▲電氣石屬　▲電氣石　柱狀の結晶にして縱に筋あり副成分の爲め其色種々なれども黑色を普通とす、百度近く熱すれば電氣を放つ故に此名あり

▲黃玉石屬　▲黃玉石　柱狀の結晶にして無色若しくは黃綠等の色あれど光線に觸るれば普禮色す、之を以て金剛石の僞物を作る

▲輝石屬　▲輝石　▲角閃石　此兩種の鑛物は成分同じけれども結晶を異にす、共に柱狀の結晶にして普通黑色なり角閃石は輝石より長し輝石、角閃石の分解する時は滑石、雲母、綠泥石、蛇紋石等を生ず

▲異剝石　輝石の變質して生じたる者なり

▲橄欖石屬　▲橄欖石　暗綠色の鑛物にして結晶をなす事少く斑点として分をなす、然れども純粹なり表はる事あり此鑛物の變質する時は綠泥石蛇紋石等をなす

▲沸石屬　▲沸石　水を含むが故に熱すれば水を放つて沸騰す由りて此名あり、多く破碎狀又は放散狀の結晶をなし無色或は綠色を帶ぶ

▲柘榴石屬　▲柘榴石　美麗なる結晶をなし、其色紫褐色にして優良なるものは寶石とす可し、又其細粒なるものを金剛砂と稱し、磨砂に用ゆ分解すれば雲母綠泥石を生ず

▲綠泥石屬　▲綠泥石　綠色の結晶にして光澤あり剝げ易くして能く雲母に似たり綠泥剝岩を作るが故に分布廣し、輝石、橄欖石、角閃石、長石の分解産物なり

▲蛇紋石屬　▲蛇紋石又溫石　纖維狀をなし石綿の如し、之を溫石綿と云ふ、蛇紋石は橄欖石、輝石、角閃石の分解に生ず、又岩石をなす

▲滑石屬　▲滑石　塊狀をなし、白色又は淡綠色にして柔く爪を以て傷く輝石、角閃石等の變質して生ずるものなり

▲蠟石　滑石に近し

▲鋼玉屬　▲鋼玉　六角形の結晶をなし金剛石に次ぎて硬質なり、其菁色なる者を菁玉、紅色なる者を紅玉と云ふ共に寶石とす可し

▲石灰石屬　▲石灰石　其質石灰質にして種類甚だ多し

▲方解石　結晶したる石灰石なり、其純粹なる者は無色玲瓏にして光線を屈折し氷洲石の名あり

▲爪頭方解石　▲尖矛方解石　此種は方解石に近し

▲不純石灰石　塊狀の岩石をなして産す其最も普通なるものは大理石又は寒水石と云ふ

▲石版石灰石　質緻密なり

▲白堊柔かなり　前種と共に前世界動物の遺骸より化成したるものなり、美濃赤坂に産す

▲鮫石　▲重晶石屬　▲重晶石　甚だ重し故に此名あり結晶は普通無色なれど種々の色を呈するものあり

▲石膏屬　▲石膏　淡青色の粒狀若しくは纖維狀の結晶をなし、方解石に似たり熱すれば不透明の粉末となる之れ肖像の模型を作る石膏なり

▲燐灰石屬　▲燐灰石　無色乃至種々の色を呈する柱狀若しくは板狀の結晶をなす不純なる者を燐灰土と云ふ

▲鳥糞石又グアノ　は燐灰土の一種なり

▲明礬屬　▲明礬　純粹なるものは極めて美麗なる結晶をなすと云へども多くは非結晶の塊として産す

▲硝石屬　▲硝石　白き柱狀の結晶となりて産す火藥の原料に供す

▲岩鹽屬　▲岩鹽　方形中凹の結晶となりて産す元來は無色なれども混合物の爲種々の色を呈す

▲螢石屬　▲螢石　立方體の結晶をなす純粹なるものは無色なれども混合物の爲に種々の色を呈す暗所にて熱すれば燐光を放つて飛散す

◎金屬鑛物◎

▲硫黃屬　▲硫黃　結晶として産するもの少く多くは粉末又は昇華の形にて生ず

▲砒屬　▲雄黃　橙黃色の結晶なれども其形認め難し花火に使用す

▲雞冠石　紅黃色にして外氣に曝す時は黃色不透明となる之れ雄黃なり花火に用ゆ

▲安質甘屬　▲輝安質母鑛　柱狀結晶をなすもの多く其面に縱線あり鉛色にして光輝あれども空氣中に曝せば光輝を失ふ

▲滿俺鑛屬　▲滿俺鑛　結晶せず破碎陶器に繪を書く料に用ゆ

▲鐵鑛屬　▲自然鐵　天然に産する純粹の鐵なり

▲黃鐵鑛　眞鍮色にして結晶をなすもの多し製鍛に適せず

▲磁鐵鑛　鐵黑色にして磁性、磁氣あり製鐵に適す

▲赤鐵鑛　暗黑なれども粉色赤し製鐵に適す

▲褐鐵鑛　茶褐色の者多し

▲沼鐵鑛　褐鐵鑛に近く製鐵に適す

▲菱鐵鑛　黃褐色にして酸化すれば褐鐵鑛に變ず、熱すれば磁氣を起す

▲泥鐵鑛　菱鐵鑛の不純なる者なり

▲鑄鐵又生鐵　炭素の含量多し之より製鐵したる者は下の三種あり、其質脆く溶融の度低し

▲鋼鐵　凡そ百分の一の炭素を含む屈伸にして鍛錬に耐ゆ

▲鍛鐵　一萬分の一の炭素を含む故に其色白く大に鍛錬に耐ゆ

▲コバルト鑛屬　▲コバルト鑛　陶器の藍燒青（ゴス）に用ゆ

▲亞鉛鑛屬　▲方亞鉛鑛　多く褐色にして光輝を發す亞鉛を製する原料に供し難し

▲菱亞鉛鑛　亞鉛製造の原料に供す

▲錫鑛屬　▲錫石　錫黑、褐等の色あり錫を得る唯一の鑛

石なり

▲鉛鑛屬▲方鉛鑛　鉛色の結晶にして強く光輝を發す、鉛を製する原料となり又多少の銀を含む

▲銅鑛屬▲自然銅　自然に產する純粹の銅にして不規則なる形をなす

▲黃銅鑛　眞鑄色の結晶又は塊狀として產す能く黃鐵鑛に似たれども金色强し

▲藍銅鑛　黃銅鑛の分解して產す能く黃鐵鑛に似たれども金色强し

▲赤銅鑛　石の如き光澤ある結晶にして暗赤色なれども室氣中にては炭酸を取りて孔雀石に變ず

▲孔雀石　黃銅鑛、赤銅鑛、藍銅鑛の變質したるものにして綠色を呈し結晶せる者少し

▲水銀鑛屬▲辰砂　自然水銀の外水銀を得る只一つの鑛石なり緋紅色にして光澤あり之を熱して水銀を製す

▲銀鑛屬▲自然銀　不規則の形をなし銀白色なれども空氣中に曝せば黑色に變ず

▲輝銀鑛　黑色にして銀の含量甚だ多し本邦產の銀の多くは之れ

▲金屬　金には鑛石なく只自然金あるのみ一つを山金と云ひ一つを砂金と云ふ

▲山金　又砂金と云ふ

▲白金屬▲白金　多く自然鑛として出づ銀白色にして其色白銅の如し

▲石墨屬▲石墨　多く塊狀をなし普通鐵黑色なり鉛筆を製し又鐵器を塗りて銹を防ぐ

▲石炭屬　炭化の度に由り次の如し

▲泥炭　燃料に用ひられず尚植物の纖維を存す

▲褐炭　色褐色にして煤煙又臭氣を發す、泥炭に比すれば火力を强し、皆此類に屬す

▲黑炭　褐炭より炭素の量多く其色眞黑なり燃燒に際して煤煙と臭氣を發すコークスを製するに最も適す

▲無煙炭　黑色にして光澤ある事漆の如し殆んど純粹の炭素より成る燃して煤煙及臭氣を發せず、本邦には殆んど產せず

▲琥珀屬▲琥珀　樹脂が地中にて變化して生ずる者にして塊狀をなす、黃色又は褐色にして火を点ずれば能く燃ゆ、摩擦すれば電氣を發する故を以て名あり、能く浮ぶを以て海岸に發見せらる

▲石油屬▲石腦油　水成岩に貯藏す黃色不透明にして揮發性なり

▲地蠟又オゾケライト　不規則にして黃色又は褐色の塊なり地中より出づ

第八號函　岩石

◎水成岩

▲礫　岩石の破粹消磨して生ず

▲砂　礫の小なるものなり

▲礫岩又千持石　砂及礫の石灰、硅酸等に由りて固結したるものなり

▲硬砂岩　砂粒の粗にして硬質なる砂岩を云ふ

▲粘土　陶土の不純なるもの、不純なるものを泥土と云ふ

▲泥灰岩　粘土質の固結して岩石となり石灰質に富めるものにして灰色の者多し質甚だ軟かなり

▲板泥岩又シエール　泥の固結して岩石に化し、板狀に剝げる性を得たるものにして動植物の化石を多く含む

▲粘板岩　板狀の堅きものにして其剝離一層完全なるものなり石版石と稱する者即ちこれなり

▲凝灰岩　火山より噴出したる灰及岩石の破片等の水底にて固結したるものなり

▲赤間石一名シャールスタイン　凝灰岩の緻密なるものなり、硯材に用ゆ

▲石灰岩　石灰石の岩石をなせるものなり

▲石炭　岩石をなす

▲硅藻土　硅藻の遺骸の積載して土質となりし者なり

▲片磨岩　成分は花崗岩と同一なれども層狀にして剝げ易し

▲雲母片岩　片磨岩よりも雲母の層多く更に剝げ易し

▲千枚岩　雲母片岩によく似て條理甚だ著しく其面は絹糸の如く光澤あり

▲角閃片岩　角閃石の纖維狀のものを含み甚だ剝げ易し

▲輝石片岩　輝石を多く含み剝離性を有す

▲輝岩　輝石片岩と同一なれども條理なし

▲綠泥片岩　多く綠泥石よりなり其色青し故に普通秩父青石と云ふ

▲滑石片岩　專ら滑石より成り脂肪樣の感あり

◎火山岩

▲火山砂　▲火山彈　▲浮岩又輕石　等は火山の噴出物なり

▲粗面岩　外面粗なり

▲石英粗面岩　粒狀の大なる石英を含み粗面なり

▲安山岩　能く粗面岩に類す中に含む成分に從ひ種々の種類あり

▲輝石安山岩　▲角閃安山岩

▲玄武岩　甚だ緻密にして柱狀をなすもの多し

◎深成岩

▲花崗岩　生成分たる石英、長石、雲母を明かに認め得べし

▲花崗班岩　三主成分の一つが粗大にして班狀をなすものなり

▲砂　花崗岩の崩壞して其成分たる石英の細粒となりたるものなり、長石は粘土となる

▲閃綠岩　斜長石角閃石は其主成分にして粒狀なり

▲閃綠班岩　閃綠岩の主成分の一つが班狀をなすものなり

▲輝綠岩　斜長石及輝石を主成分とし石理粒狀なり

▲輝綠班岩　輝綠岩の主成分の一つが班狀をなす者を云ふ

▲班糲岩又糲岩　斜長石と角閃石又は異剝石を以て主成分とす、石理粒狀なるものなり

▲橄欖岩　橄欖石を主成分となし粒狀細かにして石理緻密なり

化石

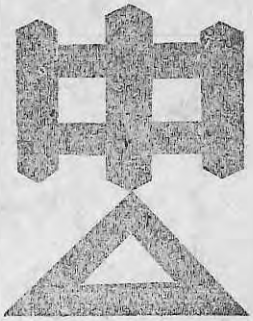
◎動物化石（中世紀化石）　本道には中世紀白堊紀の化石甚だ多く其主なるもの次の如し

▲あんもないと　▲いのせらます　▲はーまいと　第三紀化石　▲ぬくら　▲ほたてがひ

◎植物化石

▲せくうをいあ　▲べちゆら　▲ぽぴゆるす

吳服部



電話
三十四番

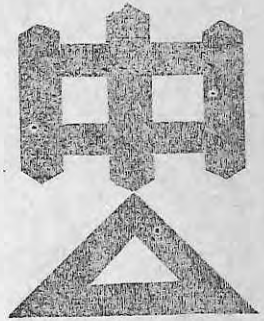
吳服 洋服 陳列

木綿及洋反物何品ニテモ流行品取揃申候ニ付何卒御用仰付願上候

地質上等柄合流行仕立念入ニスタイルハ最新ニテ安價ニ調進仕候

ショール肩掛羽織紐靴鞄毛布シャツ紙入銀貨入帽子髪飾品化粧品

小間物部



電話
八百四番

本年流行の新柄呉服太物類種々取揃へ陳列
致居候間何卒御來觀奉希上候

札幌

井今井呉服店陳列場

電話 二十一八五番

流行新柄の子ルとセル到着此際非常の廉價
を以て販賣仕り候

内外藥品
工業藥品
高名賣藥
繪具染料
醫療器械
衛生材料
滋養品類
度量衡器

誠實勉強ヲ以テ小賣卸賣共貴需ニ可應多ニ少不拘御用命願上候

小樽色内町七番地
谷黒莊平藥店
振替貯金口座
東京九三二〇
電話千二百十番
電略〇二

電話、電燈、電力、電信
器具、機械材料類
避雷針各種
電鈴各種
右格安念入安價ヲ以テ製造販賣並取付請負可致候
札幌區南一條西五丁目
桝潟商店
電話七一七番

硝子標本壜各種

洋燈類
硝子器
板硝子
洋食器

札幌區南一條西二丁目七番地

河内商店

和洋紙筆墨類
高等文房具一式
印刷物和洋帳簿
平紐、麻玉糸
測量及製圖器具機械同用紙類
英米國製自轉車及附屬品
度量衡器消火器騰寫版

柏

札幌區南一條西二丁目八番地

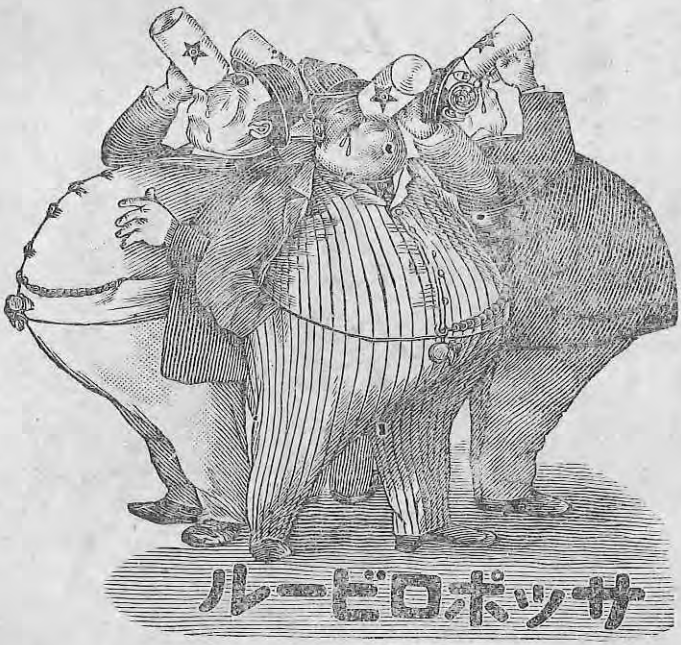
市川商店

電信略號（イ）
電話 六百十四番

（後付四）

四季の

好飲料



㊂呉服店電話十九番は札幌南一條西三丁目角にあり常に流行新柄の魁にて客扱へ丁寧至つて買易き便利なる店であります

札幌

㊂ ㊂屋 呉服店 金物店

㊂金物店電話百五十番は銅鐵打刃物洋食器始めあらゆる金物御臺所道具器物度量衡に至る迄良き品を取揃へ値段は無比の勉強であります

洗濯

清潔＝消毒＝衛生

一手卸元 大 齋藤洋物店

經濟＝時間＝金錢

サツポン

札幌旅館

山形屋大竹敬助

電話（五二番）（七五六番）

（後付七）

發明品小博覽會

懷中電燈　自轉車電燈
鞄入電燈　手提電燈
醫療感電器械　電氣煙草盆

特許要心籠　自由按摩器
空管消火器　理髮消毒器
強力接合劑メンダイン

圖入說明書進呈

大懸賞付

ラーヂ自轉車

特約店

小柳洋物店

札幌區南二條西三丁目

◎電話七百五十五番◎

（後付八）

北海道で唯一の
デパートメント
ストーアは
札幌の
五番館

諸官衙
御用達

ヲ
落合商店
札幌區南一西四
電話八一二

◉北海みやげ◉

◉北海道みやげの逸品！

天下一品

札幌農科大學編纂

漫故寫眞帖 第一集 札幌

函入打紐綴美本
正價一圓三十錢
送料八錢

農科大學博物館ニ於テ秘藏セラレタル珍品ヲ復製美裝シテ之レニ詳說ヲ付シタル札幌ノ開拓歷史寫眞帖ナリ加フルニ現今ノ盛況ヲモ一目ニ知ルベク全景ヲ加ヘタルハ實ニ好古ノ紀念物タリ印刷ノ美ハ俗ヲ拔ンデ製本優美ト相伴フテ識者ノ賞讃ヲ博シツヽアリ

北海首府

札幌全景

札幌區勢展開圖

右二圖ハ此札幌ノ大勢ヲ一目ニシテ知ルコトヲ得ル逸品タリ札幌ヲ知ラント欲セバ之レヲ見ラレヨ札幌ヲ他ニ紹介セントセバ必ズ之レヲ贈ラレヨ

正價三十錢
送料貳錢

ハガキ二枚ツヽキ六枚組

正價貳拾錢

ハガキ八枚ツヽキ形一枚

札幌名勝ゑはがき帖

一冊貳拾五錢
種類八十餘景
アルバム入十二枚綴リ
一冊貳拾五錢
種類七十餘景

高尙アルバム入十二枚綴

農科大學ゑはがき帖

六十枚一組 五錢

北海之漁業

十二枚一組二種 三十錢

北海土人風俗繪はがき

一組 三十錢

發行元 南一西四 維新堂書房 ◉特約店 北四西三 五番館

毛髮肥料 バラダイス香
芳香清涼 クール香水
北海道代理店
札幌 上原理髮館

主任技師門間芳影（新歸朝者）
寫眞
技術の巧妙と期日の迅速は本館の特色
札幌區南五西二（大黑座前）
曾根寫眞館

藥種賣藥 化粧品
支店 宮地藥舗
札幌南二條西一丁目
電話 七二二番

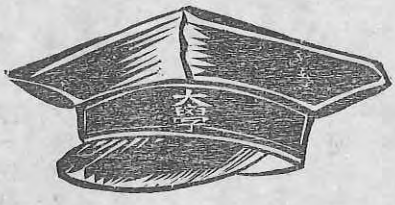
ペンキ塗看板調製
札幌南一條東三丁目
福田元祿堂

（後付十一）

東北帝國大學農科大學御用達

純良藥品
有効賣藥
醫療理化學
用諸器械
度量衡器
消毒繃帶材料
繪具染料
洋酒滋養品
硝子製品

札幌區南三條西四丁目
關谷藥舗
電話六二〇番



帽子類各種
帽子附屬品一式
各學校制帽及
徽章、ゲートル
製造及販賣
其他靴下
メリヤス類

札幌區南一條西三丁目（停車場通リ東側）

安倍帽子店

（後付十三）

農科大學公認下宿

謹告

弊館ハ農科大學ニ近クシテ通學ニ便利敷地高燥ニシテ空氣ノ流通ヨク衛生ニ適ス

弊館ハ西南方手稻藻岩ノ諸山ニ相對シ眺望絶佳閑靜ニシテ學生諸君ノ下宿ニ適ス

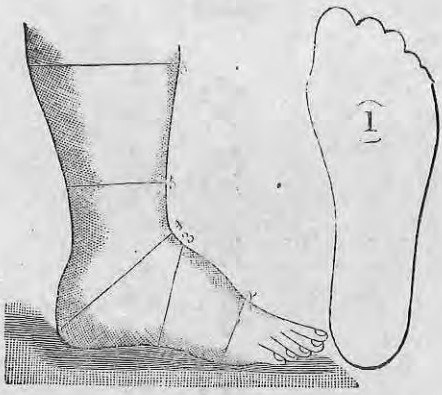
弊館ハ正實勉强ハ勿論萬事懇切便利ニ御取扱可仕候間御下宿御用命ノ程偏ニ奉願候謹言

札幌區北六條西七丁目九番地

琢成館 渡部民江

高等靴各種製造販賣寸法用紙は御申越次第送呈仕候也

寸法取方



札幌區南一條西三丁目

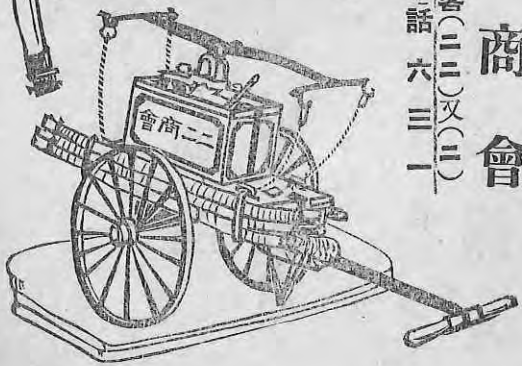
木本靴店

(後付十四)

消防用喞筒各種附屬品及消火器類
林檎除虫袋製造元

札幌區北一條東四丁目九番地
輕便馬草切器
馬鈴薯細斷器
札幌監獄工業品
製作販賣所
紙函類製造販賣
二二二商會
電話六三一（三）又（三）電畧

諸官廳御用達



（後付十五）

營業案内

萬小間物
化粧品類
教育玩具
學校用品
運動具類
唐木細工

文
雜貨
問屋

早川文治商店
北海道札幌區南一西四

最新流行形
洋服調進
並ニ附屬品販賣

大
成宮熊八
札幌南一條西四丁目
電話七百一番
電報（ナル）

（後付十六）